FUJI SASH

窓から夢をひろげていきます

不二サッシグループ

CSR報告書 2021

経営理念

基本姿勢

不二サッシは
窓から夢をひろげていきます

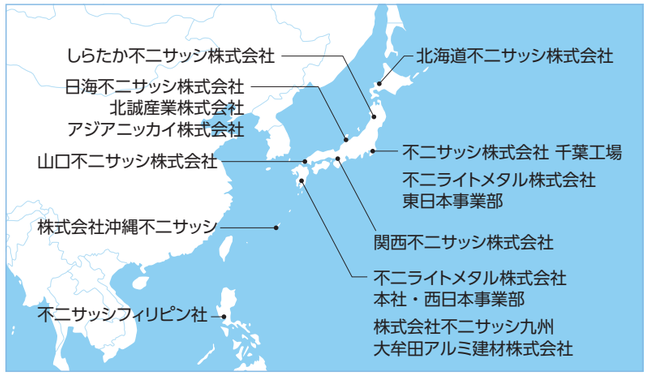
行動規範

私たちはお客様との絆（きずな）を大切にします
私たちは心をこめた商品を世に出します
私たちは活力あふれる気風づくりに努めます

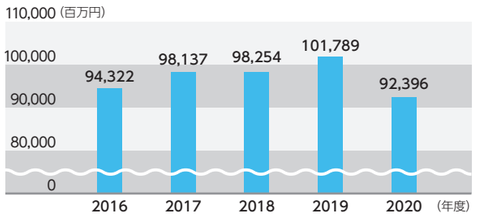
会社概要

商　　号	不二サッシ株式会社 (FUJI SASH CO.,LTD.)
本社所在地	神奈川県川崎市幸区 鹿島田1丁目1番2号 新川崎三井ビルディング
創　　業	1930（昭和5）年7月7日
設　　立	1969（昭和44）年5月1日
資 本 金	1,709,609,300円
従業員数	886名（連結 3,055名） （2021年3月31日現在）

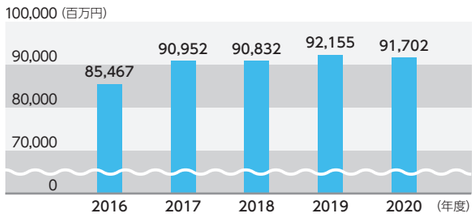
不二サッシグループ生産拠点



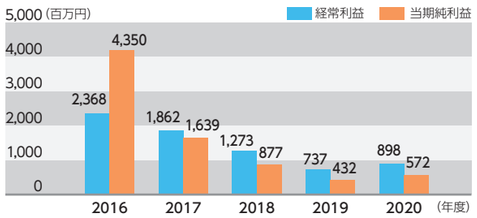
売上高



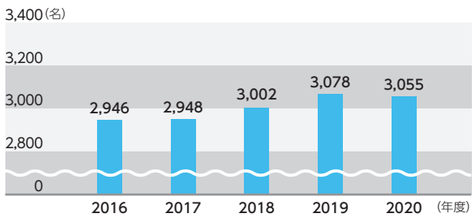
総資産



経常利益／当期純利益



従業員数



編集方針

本報告書は、「環境省ガイドライン」を参考に不二サッシグループの事業内容および環境分野を含めたCSR（社会的責任）に対する基本的な考え方やその活動をステークホルダーの皆様へより広くご理解いただくことを目的として、毎年ホームページ上に公開しています。
今年度の報告内容については、脱炭素社会の構築に資するSBT認定の取得に向けてサプライチェーンCO_2排出量算定の対象拠点を増やすとともに、取引先の脱炭素に向けた取り組み状況の調査結果も掲載しました。さらに、コロナ対応を契機としてDX推進も兼ねた社外とのWEB会議活用に関する状況等も加えるなどの拡充を図りました。
また、前年度に最終年度を迎えた中期経営計画「創造」の総括と、次年度より開始する次期中期経営計画の基本方針の公表も行いました。

WEB マークの項目は
当社ホームページ上で詳細情報をご覧いただけます。

● **対象範囲**
不二サッシ（株）および関連会社
特定の範囲を示す場合は本文にその旨を表記しています。

● **対象期間**
2020年 4月 1日～ 2021年 3月 31日
※ 一部対象期間以外の情報も含みます。

目　次

企業理念／会社概要 2
目次／編集方針 3
トップメッセージ 4
価値創造のあゆみ 6
不二サッシグループの製品・サービス 8

特集　「100年企業」を見据えた取り組み 10

マテリアリティ一覧 14

E　地球環境のために 16
脱炭素社会の構築に向けた企業活動状況 16
Scope1・Scope2排出量に関する取り組み 17
Scope3排出量に関する取り組み 18
環境負荷の低減 19
環境マネジメント 19
環境会計・マテリアルフロー 20

S　お客様とともに
製品品質・安全への取り組み 21
2020年度活動実績 21
社会とともに
不二サッシグループ各社の活動 22
従業員とともに
TOPICS 24
人権の尊重 25
人材育成 26
労働安全衛生 26
ワークライフバランス 27

G　マネジメント
コーポレート・ガバナンス 28
コミュニケーション
ステークホルダーとのコミュニケーション 30

第三者意見 31

不二サッシグループは
1930年の設立以来90年以上にわたり、
お客様との絆を大切にし、
心を込めた商品を提供してきました。
そしてこれから先、100年企業へ向けて、
スピードを上げて変革に挑戦し、企業価値を高め、
持続的成長を実現することで、
すべてのステークホルダーの皆様から
「選ばれる企業」を目指してまいります。

代表取締役社長　吉田 勉

中期経営計画(2017-2020年度)の振り返り

2020年度は中期経営計画「創造」の最終年度でしたが、コロナ禍の影響により2019年度には11年ぶりに1,000億円の大台を超えた売上高は924億円まで落ち込み、海外工事やサッシ改修工事についても停滞、建材事業では商品開発費の増加により利益率が低下、形材外販事業においても市場環境の悪化の影響を受けるなど厳しい内容となりました。

一方、建材事業においては市場環境に即した商品設定が順調に進み、光建材もアルビームシステムのラインナップ拡充により受注に寄与し、防水や塗装工事は堅調に推移しました。また、収益を圧迫した形材外販事業では生産体制の見直しや不採算取引の改善等、抜本的な対策を開始しました。環境事業ではごみ焼却施設が減少する中、メンテナンスに注力し収益力を強化、運送事業においても受注拡大と生産性向上により収益の拡大に努めるとともに、千葉事業所内に営業倉庫を新設し、事業領域の拡大も目指しています。

また、2017年度には従来の「社会環境報告書」を「CSR報告書」に更新、2019年度には新たにSDGsの趣旨に賛同し、グループがこれまで進めてきたESG課題への取り組みを強化するとともに、情報の公開にも努めてきました。

次期中期経営計画について

現在、2021年度は次期中期経営計画の発射台とするための足場固めの事業年度として推進しています。

2022年度を開始年度とした次期中期経営計画は、2030年に迎える創業100年を見据え、これまで不二サッシグループが培ってきたエンジニアリング力、商品開発力、生産力をさらにブラッシュアップさせ、しっかりとした事業基盤の確立を目指してまいります。

次期中期経営計画の基本方針は

1. 稼ぐ力の向上

(1) 変革(DX等の積極的な活用)へ挑戦し、生産性向上を図る

(2) 採算管理の徹底、丁寧なお客様対応により、営業強化を図る

(3) 事業領域・エリアを拡大し、新規・注力事業を強化する

2. 脱炭素経営の実践

(1) SDGs貢献への取り組み

(2) ESG経営の実践

3. スピード感のある改革と成果

としており、SDGsへの貢献やESG経営についても経営上の重要テーマとしてグループを挙げて取り組んでいきます。

100年企業への取り組み

光建材事業

外装建材とLED照明を融合させた「アルビームシステム」に加え、建材メーカーならではの視点からアルミ押出形材の特性を活かし、従来にない精度と施工性を実現した建築化照明「アルビームインテリア」を新たにラインナップ。インテリア市場へも光建材を展開することで、事業領域を拡大していきます。

運輸事業

不二サッシグループでは、自社製品の運送にとどまらず物流事業としてトラック・トレーラーでの輸送や輸出・輸入等の国際物流、倉庫での保管・流通加工等、様々なサービスを提供しています。エコドライブによるCO_2の排出量削減やホワイト物流による物流改革への貢献を推し進めるとともに、2021年4月には千葉事業所内に新たに開設した営業倉庫の稼働を開始し、社会への貢献と事業の強化に取り組んでいます。

脱炭素への取り組み

不二サッシグループではこれまでも環境負荷の削減に努め、環境マネジメントシステム導入済の主要4サイト(本社、東京、千葉、関西)においてCO_2排出量を算定していましたが、このたびSBT(Science Based Targets)の設定および認定取得に向けて、4サイトのScope1、2から対象を拡大し、グループ全体のScope1、2、3の算定を開始しました。今後はサプライチェーン排出量の把握と削減目標の設定を通して脱炭素への取り組みを一層強化し、パリ協定の求める水準に整合する企業を目指していきます。

価値創造のあゆみ

変革への挑戦、　選ばれる企業へ

私たちは1930年の創業以来、サッシの製造事業を通じてビルや住宅における快適な居住環境を追求してきました。特に1958年に国内で初めて製造販売を開始したアルミサッシ分野では、一貫生産のアルミサッシ・カーテンウォールのパイオニアとして国内外のビッグプロジェクトに参加し、都市景観の創造に寄与してきました。
そして現在は、2030年に迎える創業100年を見据えた事業基盤の確立を目指した足場固めを行うとともに、1.稼ぐ力の向上　2.脱炭素経営の実践　3.スピード感のある改革と成果　を基本方針とした次期中期経営計画の策定を進め、ステークホルダーに選ばれる企業を目指して更なる変革へ挑戦しています。

第一次中期経営計画
改革
(2011-13年度)

第二次中期経営計画
躍進
(2014-16年度)

第三次中期経営計画
創造
(2017-20年度)

次期中期経営計画
(2022年度～)

サステナブルな
社会実現への貢献
「選ばれる企業グループへ」

100年企業
(2030年度)

カーボンニュートラルの実現と
その先の未来へ
「不二サッシグループは
窓から夢をひろげていきます」

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
SDGsの期限である2030年は、当社創立100周年にあたり、目標達成に向けて取り組みを強化しています。

1930 ｜ 1970 ｜ 1980 ｜ 1990 ｜ 2000 ｜ 2010 ｜ 改革 ｜ 躍進 ｜ 創造 ｜ 2020 ｜ 次期中期経営計画 ｜ 2030

1930
鋼製建具の製造を目的に
(株)不二サッシ製作所設立
(旧 不二サッシ工業(株))

ホテルニューオータニ

1957
米国フェントロン社と技術提携し
アルミサッシの技術を導入

1958
日本で初めてビル用アルミサッシの製造・販売を開始

1961
日本で初めて住宅用アルミサッシ「片引きFK」発売

1964
日本初の超高層建築「ホテルニューオータニ」竣工
当社のカーテンウォール工法が採用される

1965
千葉県市原市に千葉工場完成

1968
大阪府高槻市に大阪工場完成

1969
- 東洋ハウジング(株)設立(旧 不二サッシ(株))
- 九州不二サッシ(株)設立

1975
- サッシの表面処理工場で
  発生するアルミスラッジを
  有効利用した
  ヘドロ汚泥の固化材
  「アルサイト」を開発、営業開始
- ユニットハウス「アムコ」発売

1981
不二サッシ工業(株)、不二サッシ販売(株)、
不二サッシ(株)(旧 東洋ハウジング(株))
3社合併により、不二サッシ(株)として新発足

1990
経営理念「窓から夢を」制定

1992
- 経営理念を主題とする
  シンボルマークを制定
- 東京証券取引所市場
  第二部に株式上場

1994
不二サッシフィリピン社設立

1997
- 千葉カーテンウォール
  試験センター稼動
- ISO9001認証取得

1999
(株)荏原製作所と提携し、
ダイオキシン類
低温加熱分解装置の
製造・販売開始

2001
- 全国22販売会社を
  全国6広域販売会社に再編
- ISO14001認証取得

2002
「エコアマド」発売
2002年度グッドデザイン賞
受賞

エコアマド

2004
九州不二サッシ(株)を
完全子会社化

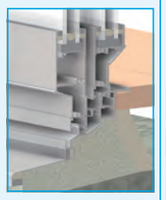
2006
(株)不二サッシ九州を承継会社とし
「九州地域製販一体新会社」を発足

2007
九州不二サッシ(株)を
承継会社とする
資材統合新会社を発足
これに伴い社名を
不二ライトメタル(株)に改める

2009
文化シヤッター(株)と
「資本および業務提携に関する
基本合意書」を締結

2012
面発光体LEDを採用したデスクライト
「アルエア」発売

LED商品
アルエアシリーズ


次世代
ハイグレードサッシ
「FNS-Ⅱ 70」

2015
- 不二ライトメタル(株)
- マグネシウム合金を使った
  医療機器開発を始動
- 折り畳み式
  ユニットハウスの接合部で
  業界初の技術評定を取得

構造認証ハウス

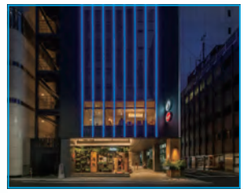
2016
- 台湾に合弁会社
  「不二太天股份有限公司」を設立
- 次世代ハイグレードサッシ
  「FNS-Ⅱ 70」発売
- 二軸破砕機の販売を開始

二軸破砕機

2017
- 不二サッシベトナム社設立
- フィグラ(株)、(株)遠藤照明との
  異業種コラボレーションによる
  これまでにない建築ファサードの提案

2018
アジアニッカイ(株)、北海道住宅サービス(株)、
高槻ダイカスト(株)
新たに不二サッシグループに

2019
- 日本防水工業(株)、日本スプレー工業(株)
  新たに不二サッシグループに
- 光建材「ALBEAM Plus」を発表


アルビームカーテンウォール

2020
「瀋陽遠大鋁業工程有限公司」との業務提携

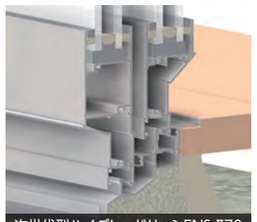
不二サッシグループの製品・サービス

私たち不二サッシグループは「ものづくり」という原点を大切にしながら、さまざまなソリューションへと導くエンジニアリング的なアプローチで、多角的な分野において、革新的なチャレンジに取り組んでいます。また、環境との調和を「経営理念」実現の課題の一つとして、すべての 事業活動において、環境への負荷低減や安心安全な商品づくりに取り組んでいます。
不二サッシブランドが約束する高い品質、ゆるぎない実績、新たな価値の創出によって、お客様の信頼に応え続け、より豊かで持続可能な社会の実現に貢献したいと私たちは考えています。

建材事業

ビル建材事業

専門メーカーとして長年培った高度なテクノロジーとノウハウを駆使し、高い性能や品質と多様なデザインの要求に応えるビル用サッシ・カーテンウォールをご提案します。



次世代型ハイグレードサッシFNS-Ⅱ70

高層マンションで求められる、より高い耐風圧性能、水密性能をクリアし、さらに断熱性能、遮音性能を発揮するハイスペックな商品です。

アルミ樹脂複合サッシFNS-Ⅱ100R

アルミと樹脂を組み合わせることで高強度・高断熱と居住性を共存させ、低炭素社会実現に向けた集合住宅向けのZEH-M（ゼッチ・マンション）の普及に貢献する次世代のサッシです。

住宅建材事業

住宅建材商品は省エネや高齢化社会に備えたバリアフリー化など、快適性を高めるための多様な機能が求められています。リフォーム市場も視野に入れたエコアマドやエコ面格子といったエコシリーズ商品の充実を図り、お客様のニーズに応えています。

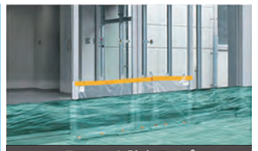
特定得意先向け高断熱サッシ

ウインドウリフォームシリーズ

角度自在のルーバーがプライバシーを守りながら室内にこもった空気をしっかりと換気。
「玄関ドア用ルーバー網戸」を設置した玄関から、「エコアマド」や「エコ面格子」などを設置したリビング・キッチンなどへ、住まいに風の通り道をつくりだします。

フロントサッシ事業

オフィス、マンションのエントランスから店舗、ショールームなどの大開口部のファサードまでお客様のニーズに最大限にお応えする豊富なフロント商品を取り揃えています。



Fフロント防水タイプ

自動ドア部にポリ塩化ビニル製の止水シートを標準装備。止水シートが水圧でサッシ・ガラスに密着し、土のうの約 10倍の止水性能を発揮します。

ユニットハウス・防災関連事業

多目的な展開が図れるユニットハウスや防災備蓄倉庫、高性能機器収納箱（シェルター）まで、多様な用途にお応えするパッケージ商品を多彩なラインナップで揃えています。

防災備蓄倉庫（フジストッカー）

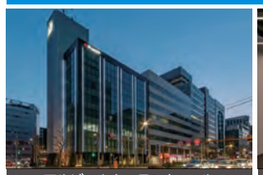
防災倉庫にはソーラーシステムユニット が加わり、備蓄品の長期保存だけでなく、災害 時の拠点としての有効利用も可能になりました。

リニューアル事業

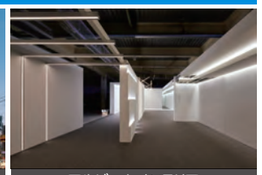
ストック化が進むマンションやオフィスビルを中心とした様々な建築物にリノベーション工事を施すことにより、快適な居住空間の提供や資産価値の向上をお手伝いします。

光建材事業

独自設計のLEDモジュールを使った商品の開発を進めています。アルミ素材とLEDの融合により様々な商品の可能性を広げていきます。



アルビームカーテンウォール



アルビームインテリア

2021年新発売 特集P10参照

海外事業

フィリピン、ベトナム、台湾など東南アジアを中心に不二サッシブランド商品の展開や現地企業とのアライアンスを積極的に推進しています。

形材外販事業

アルミ形材・アルミ加工品事業

一貫生産システムで、建材から半導体製造装置、自動車関連、家電製品、事務機、日用品の部品まで軽金属のサプライヤーとして多様な商品を提供 しています。

飛沫感染対策シリーズ

アルミフレームを使用しており、軽さや耐久性などに優れた間仕切りです。テーブルなどの上に置いて使える「飛沫ガード」と床に置いてより広い範囲をカバーする「飛沫スクリーン」を用意しています。

ソーラー架台

JIS C 8955の基準に沿った設計で、要求される強度を満たしつつ、軽量化・施工性を考慮した形状になっています。

クロススクリーン

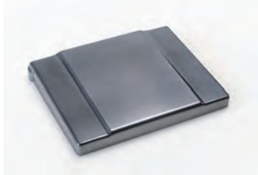
用途は医療用を主としていますが、災害時等、様々な用途で使用できるマルチタイプ です。

競技用車いす

熊本出身の選手と連携して開発した「made in Kumamoto 」のマシンです。

マグネシウム合金事業

実用金属中最も軽量なマグネシウム合金の押出加工技術の研究と開発、製品化に取り組んでいます。
高強度・高耐熱マグネシウム合金はあらゆる分野での事業展開が期待されており、不二ライトメタルでは、汎用マグネシウム合金、純マグネシウム、KUMADAI耐熱マグネシウム合金、難燃性マグネシウム合金、生体吸収性マグネシウム合金等、多様な合金を取り扱っています。



環境事業

都市ごみ焼却飛灰処理事業

長年の経験で培ったノウハウに基づいて、飛灰処理システムの設計・施工に加え、設備機器のコーディネイト等エンジニアリング全般をお引き受けいたします。また、飛灰処理過程でのダイオキシン類の分解や飛灰固化については、独自の技術に基づく装置の開発を行い、有害重金属の溶出を防止する各種薬剤とともに製造・販売を行っています。

ダイオキシン類低温加熱分解装置

混練成形機

リサイクル・粗大ごみ処理事業

粗大ごみや不燃ごみ、ペットボトル、廃プラスチック等それぞれのごみに合わせた処理システムの設計・施工およびエンジニアリング全般をお引き受けいたします。

二軸破砕機

薬剤事業

有害物を含んだ都市ごみ飛灰や焼却灰・溶融飛灰中の重金属処理用として液体系・粉体系の各種処理剤、および排ガス中のHCl除去剤に加え、下水汚泥用・軟弱地盤用固化材の製造販売や、バイオマスを有効利用した土壌用粉塵防止剤を販売しています。

粉塵防止剤 フライネットR（植物原料）

運送事業

トラック・トレーラー輸送

迅速・確実・丁寧をモットーに、大型車両や特殊車両による長距離輸送をはじめ、中・小型車両によるDoor to Door輸送など、あらゆる輸送に対応しています。

国際物流（輸出・輸入業務）

海外から国内指定納品先までのDoor to Doorのサービスや、日本各地の主要港・空港における輸出入貨物の取り扱い業務を行っています。

倉庫・保管・流通加工

全国の拠点や倉庫を活用し、一時保管、製品管理、検品、組立、ラベリング、仕分け、梱包など、熟練スタッフによる高品質のサービスを提供しています。

オフィス移転・引越し

店舗やオフィスの移転、転勤による引越し、家財の一時保管も承っています。

大型設備・重量物の運搬・設置・解体

国内外でのプラントの設備および装置の移設に伴う解体・輸送・設置サービスを行っています。

特集

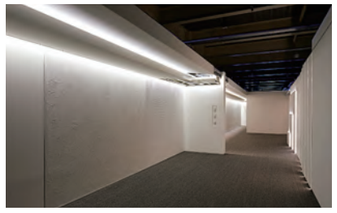
「100年企業」を見据えた取り組み

不二サッシグループは2020年に創立90周年を迎えました。
そして2030年の創業100周年を見据え、企業価値を高め、存在感を発揮し、
選ばれる企業を目指して様々な取り組みを行っています。

事業領域の拡大　光建材事業

間接照明・意匠系照明建材シリーズ「アルビームインテリア」を発売

不二サッシ株式会社は、外装建材と照明を融合させた独自の光建材商品「アルビームシステム」に加え、「アルビームインテリア」を新発売し、インテリア空間にも光建材の領域を広げていきます。「アルビームインテリア」は、室内の壁・天井の間接照明を工業化し、デザイン性、施工性に優れた建材と照明の 融合により、自由な発想でインテリア設計する、を商品コンセプトとした内装用光建材シリーズです。建材メーカーならではの視点から、アルミ素材による美しさ、シャープさを生かし、従来の照明器具だけでは実現できなかったコンパクトで精度の高い“納まり”の建築化照明を提案します。



施工を省力化する間接照明シリーズ

コーブ照明は天井面、コーニス照明は壁面を照らす、それぞれ間接照明の手法です。
設置には折り上げ天井をつくることが必要ですが、アルビームインテリアではアルミパーツ化することにより、従来の施工工数を削減し、現場合わせ作業ではない工業生産品による精度の高さ、仕上げの美しさが最大の特長です。

コーブ照明用建材

コーニス照明用建材

空間デザインに彩りを加える意匠系の照明用建材

目地のように細い隙間に光のラインを加える目地照明。アルミケースを壁面に設置し、そこにアルミ材と一体となった照明部材を嵌合します。納まりも同時に考えた意匠照明建材です。

様々な納め方を可能にする目地照明建材

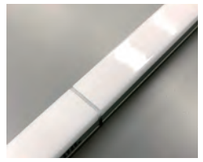
設置が難しい狭小部位に間接照明を設置できる商品

スリット型照明用建材

ホテル、オフィスビルの廊下など、狭小スペースに間接照明を設置したいという要望に対応する商品です。廊下の天井裏は吸排気ダクトや電気配線ハーネスが走り、折り上げ天井を造作できないケースがあります。そのような場合でも天井と壁の見切材に照明を組み込むことにより、間接照明を実現する商品です。

新たに設計したシームレス照明器具

「アルビームインテリア」には、専用に開発した照明器具を用意しています。光を拡散させるPCカバータイプと挟角配光のレンズタイプの2種類があり、照明器具同士が隙間なく連結することで自由な長さに対応可能です。



その他のラインナップ

壁面に埋め込みタイプのアルビームエルドロウ、極薄の光壁もラインナップに加えました。

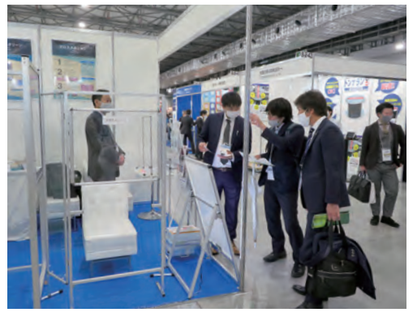
アルビームエルドロウ

極薄の光壁

コミュニティ参画および発展　持続可能な暮らしとまちづくり

「感染症対策総合展 in TOKYO」に出展

不二ライトメタルは、2020年12月2日～4日まで東京ビックサイトで開催された「感染症対策総合展 in TOKYO」に出展し、新型コロナウイルスの感染防止対策として、テーブルなどの上に置いて使える「飛沫ガード」、床に置いてより広い範囲をカバーする「飛沫スクリーン」などを展示しました。
新型コロナウイルスの影響で来場者の出足が鈍ることへの心配もありましたが、思いのほか多くの業界関係者が訪れ、関心の深さがうかがえました。



VOICE
笹田 浩介　不二ライトメタル(株)　技術営業G

今回の展示会をきっかけに、当社製品の認知度向上を目指し、また来場者から得た要望・改善点を既存製品の改善や今後の商品開発につなげていきたいと考えています。

飛沫感染対策シリーズおよび間仕切製品の新製品を発売

不二ライトメタルは、これまで培ってきた技術力を活かして感染防止対策に貢献する商品として2020年に発売し、好評を博している「飛沫ガード」「飛沫スクリーン」に加え、飛沫感染対策シリーズおよび間仕切製品として2021年新たに4種類の製品を発売しました。
「飛沫ガード(クランプ)」「スライドガード」「飛沫スクリーンぷらす」はそれぞれ会議室や病院、店舗等での使用に適した製品であり、いずれもアルミフレームの使用により軽量で耐久性に優れているうえ、アルコールや次亜塩素酸水での拭き取りも可能となっています。

また、「ジョイントパーティション」は軽く丈夫で、設置が簡単なため、避難所や学校等での設置に最適です。

ジョイント パーティション

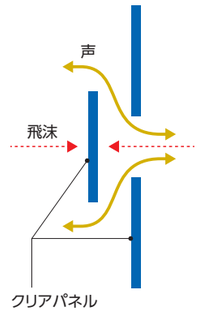
軽量かつ頑丈なため、避難所等で使用できる間仕切。マグネットにより、工具や追加の連結パーツなしに何枚でも連結できます。

飛沫ガード(クランプ)

飛沫ガードのクランプ固定バージョン。飲食店のカウンターテーブルや、会議室の長机等に設置でき、横からの飛沫を防止します。

スライドガード

診察や予防接種、血圧測定等で使用できる透明間仕切。パネルは自由にスライドできるため、利用者の座高に合わせて飛沫をガードします。
使用状況に応じて、オプションのサイドパネルも取付け・取外し可能です。



飛沫スクリーンぷらす

店舗レジ、カウンター等にぴったりの透明間仕切。一般的な透明間仕切や透明シートよりも利用者の声が聞き取りやすく、脚部がフラットなためショピングカーもスムーズにご通行いただけます。

成長戦略・事業継続計画（BCP）　グループの成長・発展

ウインブレス-EX「令和2年度 日本アルミニウム協会賞『開発賞』」を受賞

自然風力換気窓「ウインブレス-EX」が、一般社団法人日本アルミニウム協会が選考する「令和2年度 日本アルミニウム協会賞」において、「開発賞」を受賞いたしました。

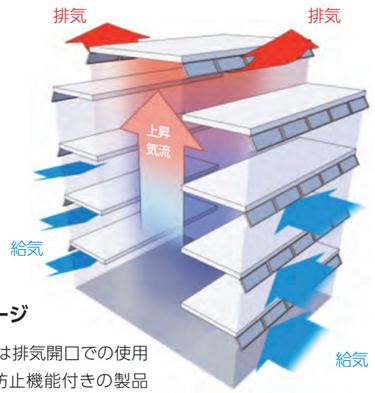
「ウインブレス-EX」は、自然換気で快適な室内環境をつくることを目的に開発したビル用アルミサッシです。窓の重量と重心、および回転軸によってヤジロベエのようなバランス状態をつくり無風から弱風時は窓が開放し、強風時は窓が自ら閉鎖し雨風の侵入を防ぐことが可能です。

建物の換気を「ウインブレスシリーズ」で行う場合、「ウインブレス」（給気開口）と「ウインブレス-EX」（排気開口）の組合わせで、計画的な建物内換気システムが構築できます。

コロナ対応や環境負荷低減が注目される昨今において、建物の換気に対する要求が変化しており機械換気だけでなく、窓を積極的に開放し空気を入れ替える自然換気ニーズに応える商品となります。

当社は今後も技術力向上に努め、環境に配慮した製品を開発し、社会的貢献と企業価値向上に取り組んでいきます。

連窓外観



自然換気の方法

風力換気　風上と風下の圧力差によって換気を行うもので、一般的に通風と呼ばれます。換気量は風力に比例し、開口面積とともに多くなります。

重力換気　室内外の空気の温度差によって生じる浮力を利用するもので煙突の原理と同じです。換気量は、開口部の面積以外に、上下の開口部の垂直距離にも影響されます。開口部の位置を上下に離し距離をとることで換気量を増やすことができます。

換気経路イメージ

ウインブレス-EXは排気開口での使用に特化した逆流防止機能付きの製品であり、吹き抜けや階段室の上部に利用することで建物全体の効果的な換気が可能です。

循環型社会の形成　環境エンジニアリング事業による貢献

環境に配慮した製品の開発とメンテナンス

不二サッシは都市ごみ焼却処理施設の飛灰処理設備システムの設計・施工に加え、設備機器の製造販売等エンジニアリング全般を実施しています。飛灰処理設備は飛灰に含まれる有害な重金属の溶出を防止する設備で複数の機器で構成されます。

新規納入製品では、従来の混練機をマイナーチェンジし、社会の要求に応えて消費電力を従来の約半分に抑えた「エコ混練機」を設計、製作、販売し、CO_2削減にも貢献しています。

また、当社はこのような設備機器を新規納入するほか、長年にわたって適切にご使用いただくために、メンテナンス事業にも重点をおき展開しています。メンテナンス事業では部品交換から大型設備機器の更新（取替）まで多岐に渡り実施、年間約200施設をアフターフォローし、設備機器の長寿命化に取り組んでいます。

エコ混練機

サプライチェーンマネジメント　物流におけるサステナビリティ

「エコドライブ」推進による燃費の向上

エコドライブとは、自動車の燃費を向上させるためのドライブテクニックやメンテナンスおよびそのための施策です。エコドライブの推進は、経済的な効果はもとより、事故防止効果や環境面への効果などにつながります。当社ではトラック燃費向上のための中心施策としてエコドライブを推進してきました。

不二倉業ではドライバーがエコドライブを常に意識し取り組めるよう、エコドライブの意義や効果、運転操作、メンテナンスなどをまとめたパンフレットを配布しています。また、「エコドライブ自主点検シート」を2か月に1回配布し、自分の運転行動を振り返って上手くできた点や、配慮が足らなかった点などを記入してもらい、管理者と協議することで次回に向けての重点ポイントを指示、実践してもらうという手法を続けています。

さらに燃費を向上させることでCO_2の排出削減にもつながります。当社では自社車両の前年度燃費との対比で同じ距離を走行した場合の軽油使用量の差から四半期ごとのCO_2の排出量を算出しており、過去5年間で約47tの排出量の削減効果が出ています。

今後もエコドライブや物流の合理化を推進し、CO_2の排出量削減を進めることでホワイト物流運動推進にも貢献できるものと考えています。

自主点検シートのチェック項目（抜粋）

発進	発進時のアクセルは、優しく踏み増すようにしている。
	前方の交通状況を把握して、加速しすぎないようにしている。
巡航	加速と減速を繰り返す「波状運転」はせず、一定の速度で走るようにしている。
	車間距離に余裕を持って走行している。
	加速が必要な時も、アクセルはやさしく踏み増すようにしている。
	排気ブレーキを常に使用していると波状運転になりやすいので、道路状況に応じて使用している。

自社トラックCO_2排出量推移　単位：t

	1Q	2Q	3Q	4Q	年度計
2016年度	-15.27	2.89	7.79	-3.33	**-7.92**
2017年度	13.67	22.50	-24.45	3.51	**15.23**
2018年度	-9.84	-27.18	-13.08	19.93	**-30.17**
2019年度	55.40	8.27	-18.66	-15.11	**29.90**
2020年度	-17.40	19.90	23.10	14.10	**39.70**
合計					**46.74**

公正な事業慣行　サプライヤーの労働環境配慮

「ホワイト物流」推進運動

不二サッシグループでは2019年度に「ホワイト物流」推進運動へ参画しました。

効果が上がっている取り組みの一つに、トラック運転者における運転以外作業の分離があります。具体的には、運転者による荷卸し原則禁止等、付帯作業に関する取り決めを定めて運用しており、現在のところルール通り運転以外の作業は発生していません。一方で課題が見えている取り組みの一つに、リードタイムの延長があります。運転者の拘束時間の削減および安全運行のための適切な休憩が取れるように取り組んでいますが、現場搬入時に荷受人が変更されていた、または不在であったため連絡が取れずに待機時間が発生する場合があります。この発生件数は以前に比べれば減少しているものの、引続き改善の取り組みが必要と考えています。

他の取り組み項目も含め、今後も関係各所との協力のもと、輸送生産性向上および物流の効率化を進めていきます。

社会への貢献と事業の強化　運輸事業

千葉事業所に営業倉庫を新設

不二サッシは、千葉事業所内に化成品を中心に物流・保管を行う営業倉庫を新設。グループで物流を担う不二倉業株式会社が4月1日より稼働を開始しました。

近年、千葉事業所のある市原市周辺の環境は、賃貸倉庫・工場の需要が増加しており、また、首都圏物流の大動脈である国道16号線（東京環状線）にも面している利点があることから、遊休地に新倉庫を建設することで資産を有効活用するとともにこの需要に対応し、当社グループのさらなる物流事業の強化を目指します。

新物流倉庫　（床面積：5944.62m²　構造：鉄骨造　階高：1階）

＊外装には2020年度グッドデザイン賞を受賞した光建材商品の『アルビーム ムーブ』を使用

マテリアリティ一覧

不二サッシグループは企業理念「窓から夢をひろげていきます」の考えのもとに、100年企業に向けてすべてのステークホルダーの皆さまから「選ばれる企業」として存在感を発揮するために、事業活動を通じて持続可能な社会の実現に取り組んでいます。

SDGsへの貢献

近年、持続可能な社会の実現のために政府・企業・関係者のすべてが自主的に取り組む国際目標SDGsの広がりによって、環境と社会を重視する経営への動きが加速しています。
このSDGsを経営戦略の重要事項と捉えて社会情勢や事業環境を踏まえ、環境（Environment）・社会（Social）・ガバナンス（Governance）の観点で、前年度整理・特定した不二サッシグループのマテリアリティ（重要課題）を一部見直しました。
マテリアリティの優先順位と具体的目標の設定を進め、それらの達成により、社会課題解決と経営戦略の共通価値の創造を目指したCSRを事業活動を通じて推進していきます。

※ 比較のため前年度CSR報告書にて評価していた項目のみ達成度を記載しています　☀ 達成　☁ 未達成項目あり

マテリアリティ			活動項目および目標	2020年度実績	達成度	対応するSDGs	掲載ページ
E 環境	脱炭素に向けた取り組み（気候危機への対応）	消費エネルギーおよびサプライチェーンCO_2排出量の削減	● 断熱・省エネ関連商品開発（CO_2削減商品の開発を推進する）	● 断熱商品　FP-AT70 / FNS-Ⅱ70CF / RE-Ⅲ改装サッシ 内倒し型換気框 / FNS-Ⅱ100R / FNS-Ⅱ100CF / フェイシングフロント 防火設備 / インナー防火スクリーン / FNS-Ⅱ70D ● 省エネ商品　アルビームカーテンウォール トランザムタイプ	☀	3 9 11	8,12
			● 生産量（押出+電解）当たりの電力消費量およびCO_2排出量原単位を前年度比1.0%改善する（環境マネジメントシステム導入4サイト）	● 電力消費量原単位：前年度比7.2%増加 ● CO_2排出量原単位：前年度比3.7%増加　※ 電力使用量：前年度比5.8%削減	☁	12	16-20
			● SBT（Science Based Targets）の設定および認定取得	● グループ全体のScope1,2,3算定開始（従来の環境マネジメントシステム導入4サイトのScope1,2から対象拡大）			
			● 各職場での節電の励行	● 従来の施策を継続（冷暖房使用抑制 / デマンド監視運用 / 照明LED化　等）	☀		17
		再生可能エネルギーの創出	● メガソーラーシステムの運用による安定的な再生可能エネルギーの創出（通期発電計画の達成）	● 3基のメガソーラーシステムを運用（千葉事業所第1発電所、第2発電所、関西不二サッシ発電所）CO_2排出削減量換算：1,384t（3基合計発電量：3,915MWh）	☀	7	16
	循環型社会の形成	環境エンジニアリング事業による貢献	● 飛灰処理プラント、リサイクル・粗大ごみ処理プラントの設計・製造・販売 ● 廃棄物の重金属固定剤、「環境型」土壌粉塵防止剤の製造販売	● 納入機器のメンテナンス推進 ● キレート剤（重金属の溶出防止剤）の販売　● フライネットR（植物原料・生分解性の粉塵防止剤）の販売	—	6 12 14 15	9,12
		資源の有効活用およびゼロエミッションの推進	● 廃棄物排出量の削減　● 廃棄物のリサイクル率97.0%以上	● 廃棄物排出量：前年度比17.6%削減　● リサイクル率：97.9% ● 図面および仕様チェックによる、過剰設計の防止や運送効率への配慮	☀	12	19
			● 新設備・技術導入による省資源活動 ● 地下水膜ろ過システムの導入による上水使用量の低減および地域貢献活動	● 事業継続計画（BCP）の一環として地下水膜ろ過システムを運用	☀	12 14	—
		製品含有の化学物質削減	● PRTR法等に対応するSDSを確保　● 部品、部材の安全性の確認	● 開発商品に使用する材料のSDSを確認し、指定化学物質の使用を回避	☀	3 12	19
	サプライチェーンマネジメント	グリーン調達の推進	● グリーン調達に向けた部品・材質への切替え ● サプライチェーンの環境活動向上への取り組み	● サプライチェーンの環境活動調査　● 樹脂部品の材質刻印の推進 ● 各生産拠点個別購買から集中購買比率向上の推進	☀	12	18,19
		物流におけるサステナビリティ	● 全社での物流改革	● 全社テーマとして「物流改革プロジェクト」を推進 ● 「ホワイト物流」推進運動 自主行動宣言（運転者の労働環境改善の推進や、働き方改革に取り組む物流事業者の活用）	—	12 13	9,13
S 社会	人権の尊重および従業員満足度の向上	人権デューデリジェンスおよびダイバーシティ&インクルージョン	● ハラスメント対策　● 多様な働き方の支援　● 育児支援制度の活用推進 ● 女性従業員の採用・育成・定着　● グローバル人材の活躍推進 ● 障がい者就労支援活動の推進　● 定年後再雇用の推進	● ハラスメントの防止：就業規則改定 ● 育児休業利用者：5名（前年度比増減なし） / 短時間勤務利用者：13名（前年度比30%増） ● 社内インターンシップによる能力開発・キャリア形成 ● 女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画の更新　● フィリピン・ベトナムなどグローバル社員の育成 ● 障害者雇用率：2.47%（前年度比0.08%増）　● 定年後再雇用者数の推移：11名（前年度比45%減）	—	5 8	24-27
		人材育成	● キャリア開発のための取り組み　● 人材育成の強化・拡充	● 通信教育による自己啓発促進　● 公的資格取得支援	—	4	26
		従業員の健康促進	● 従業員の健康のための取り組み	● 前立腺検査受診率：98% / 乳がん検診受診率：45% / 子宮がん検査受診率：36%（前年度比5%減） / 人間ドック補助利用者：本人28名、家族5名 ● 新型コロナ対応：自社製の飛沫ガードの活用 / 密を避けるための座席配置変更 / 時差通勤の推進 / テレワーク（およびそれを利用した出勤シフト制）の推進	—	3	24,26,27
	公正な事業慣行	サプライヤーの労働環境配慮	● 「ホワイト物流」推進運動	● 「ホワイト物流」推進運動 自主行動宣言（運転者の労働環境改善の推進や、働き方改革に取り組む物流事業者の活用）	—	8	13
	お客様サポート	製品品質・安全への取り組み	● 製品安全行動指針に基づくCS活動推進 ● 製品事故・品質異常の対応	● HPに消費者への注意喚起を掲載（・台風や暴風雨時の備えについて ・新型コロナウイルス感染症対策におけるサッシ消毒に関するお願い） ● 動画を用いた取扱説明書	—	11	21
	コミュニティ参画および発展	持続可能な暮らしとまちづくり	● リニューアル事業の拡大　● 都市防災・インフラBCP強化への貢献 ● 健康・福祉の支援	● CW試験センターにおける産官学との共同研究や社外からの自然環境模擬試験等の受け入れ ● 新型コロナ対応：省エネや換気機能に優れたウィンドウリフォームシリーズの拡販 / 飛沫ガード販売開始 /飛沫ガードを社会福祉法人や取引先へ寄贈 ● グリーン住宅ポイント制度（新型コロナの影響で落ち込んだ経済の回復を図る）対象製品の案内	—	3	8,9,11,12,23
		社会貢献活動・文化活動などの推進	● 事業所周辺地域との連携による社会貢献活動　● 環境貢献活動への支援・参加 ● 各種学校との連携による学生のスキルアップ ● 音楽・スポーツ・芸術などの活動の支援　● 被災地等の支援活動	● 全国事業所における清掃・防災・献血活動など ● 廃材リユースを兼ねた「いちはらアート×ミックス」出品作品への材料提供 ● 千葉県による絶滅危惧種ヒメコマツの回復計画に系統保存サポーターとして協力（苗の育成・管理）	—	15 17	22,23
G ガバナンス	企業統治	コーポレート・ガバナンスの推進	● 取締役会の実効性評価　● コンプライアンスの強化	● 取締役会の実効性評価の実施 ● ガバナンス強化施策（役員報酬の決定方針・関係会社社長会・役員セミナー）	—	9 16 17	28,29
	コンプライアンス	法規制や社会規範の遵守	● コンプライアンス教育の充実 ● 水質、大気、土壌、騒音、有害物質等の法規制・条例、その他規制の遵守状況の確認	● 環境教育を含めた、法遵守のためのコンプライアンス教育の実施（理解度テスト実施・教育動画の公開等） ● 関係会社への法遵守環境監査実施　● 2020年度環境法令違反件数：0件	☀	14	19,20,29
	コミュニケーション	ステークホルダーとの協働	● ステークホルダーとの対話の推進　● ステークホルダーとのコミュニケーション機会の創出	● 千葉事業所ショールーム増設　● アルビーム通信の発行	—	17	30
	成長戦略・事業継続計画（BCP）	技術力・危機管理能力の強化	● 技術力・施工力の強化　● 製品の安定供給　● マグネシウム事業の推進 ● 危機管理・対応能力の強化	● 電子タグを用いた建設部材の一元管理の実証（他社協働）　● 電子情報セキュリティ教育	—	9 11 13 17	9
		グループの成長・発展	● 海外事業の再構築　● 国内外企業の株式取得、業務提携 ● 製品・サービスの受賞	● 瀋陽遠大鋁業工程有限公司と業務提携　● 奈良不二サッシ新社屋完成 ● アルビームシステム　日本アルミニウム協会賞「開発賞」 ● アルビームシステムラインタイプ　キッズデザイン賞　● アルビームムーブ　グッドデザイン賞	—	17	8

E 地球環境のために

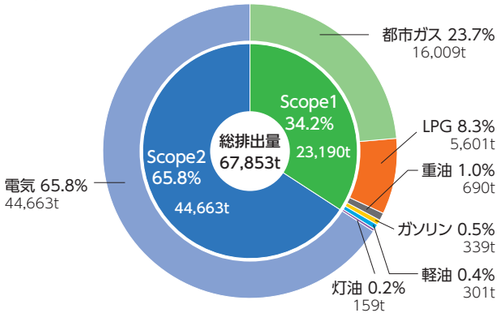
脱炭素社会の構築に向けた企業活動状況

CO_2排出量の削減

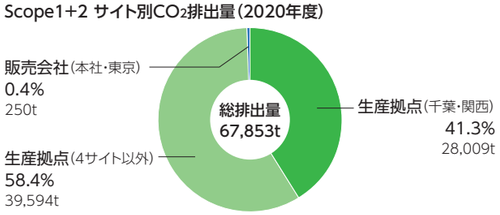
日本の2030年度温室効果ガス削減目標の2013年度比46%削減への引き上げ、コーポレートガバナンス・コード改訂案におけるサステナビリティに関する内容の補充など、脱炭素に向けた社会全体の動きは近年ますます加速しています。当社としても脱炭素社会構築に向けた取り組みとその情報開示の強化を重要課題の一つと位置づけ、その一環としてパリ協定の要求水準と整合した温室効果ガス排出削減目標SBT(Science Based Targets)の認定取得に向けてサプライチェーン排出量の算定を進めています。

その経過として、これまで自社活動由来(Scope1・Scope2)のCO_2排出量を開示してきた環境マネジメントシステム(EMS)導入主要4サイト(本社、東京、千葉、関西)に、国内生産拠点10サイトを加えた計14サイトのCO_2排出量について報告します。

Scope1+2 エネルギー源別CO_2排出量(2020年度)

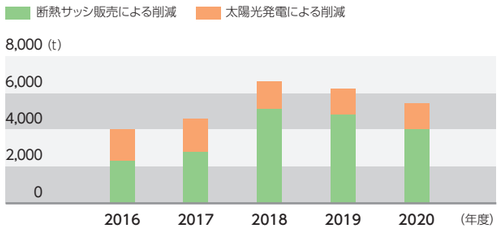


Scope1+2 サイト別CO_2排出量(2020年度)

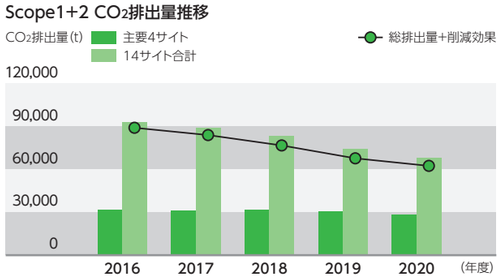


※今回算定範囲に加えた国内生産拠点：10サイト
不二ライトメタル本社、日海不二サッシ、北誠産業、アジアニッカイ、しらたか不二サッシ、北海道不二サッシ、山口不二サッシ、不二サッシ九州、大牟田アルミ建材、沖縄不二サッシ
※Scope1：都市ガス、重油、LPG、ガソリン、軽油、灯油
Scope2：電気(熱、蒸気の消費はありません)

断熱サッシ販売・太陽光発電によるCO_2排出量削減効果



Scope1+2 CO_2排出量推移



※断熱サッシ販売によるCO_2削減量は、単板硝子(U=6.494W/m²·K)に対して当該商品を使用した場合の効果。NEDO発行「断熱部材のLCCO₂評価・算定法の標準化調査」成果報告書により算出。
※太陽光発電によるCO_2削減量は、各拠点の契約電力会社の調整後CO_2排出係数と、太陽光発電システムCO_2排出係数(47g/kWhと仮定)を用いて算出。

2020年度のEMS導入主要4サイトおよび国内生産拠点10サイトにおけるScope1・Scope2のCO_2排出量の総合計は67,853t/年となりました。

その内Scope2が65.8%を占め、電気由来の排出量が多い結果となりました。また、Scope1では都市ガスが最多ですが、これは重油・LPGからCO_2排出量低減に資する都市ガスへ燃料転換してきた結果です。

また、販社と生産拠点で分けると99%以上が生産拠点由来でした。今後さらに算定範囲を拡大していきますが、当社は製造業であるため、生産拠点由来のCO_2排出量が大勢を占める傾向は変わらないと考えています。

Scope1・Scope2における課題として、生産拠点の電力消費によるCO_2排出抑制を今後も推進していきます。

当社では社内の省エネ活動のみならず、断熱性能を高めたサッシ商品の開発・販売によりビルや住宅における冷暖房のエネルギー消費由来のCO_2排出量削減に貢献しています。2020年度の断熱サッシ商品販売実績により見込まれるCO_2削減量は4,050tでした(前年度比16.5%減)。

また、千葉工場と関西不二サッシでは建屋屋上を利用してメガソーラーによる再生可能エネルギーの創出も行っています。2020年度の合計発電量(千葉2基・関西1基)のCO_2削減量換算値は1,384t/年となりました(前年度比0.8%減)。

左記の2020年度CO_2総排出量67,853t(前年度比8.2%減)と、上記の断熱サッシ販売およびメガソーラーによるCO_2削減量の合計では62,419tとなりました。

Scope1・Scope2排出量に関する取り組み

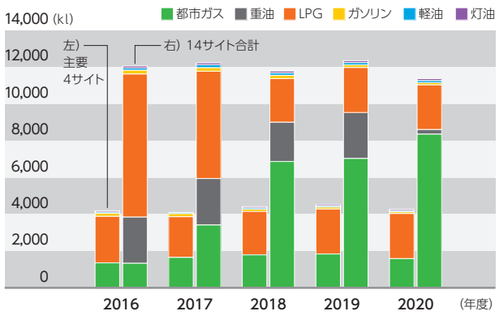
燃料使用量・電力消費量の削減

今年度より、算定範囲として従来のEMS導入主要4サイトに他の国内生産拠点10サイトを追加しました。

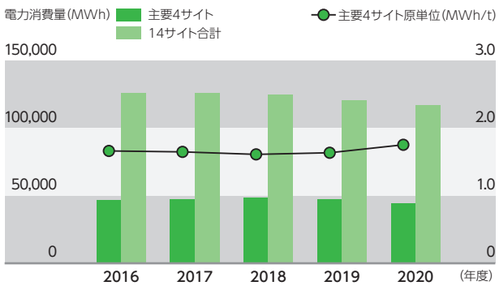
燃料について、生産段階で用いられる都市ガスやLPG等の2020年度使用量(原油換算値)は4サイトで4,157kL(前年度比5.6%減)、他の国内生産拠点も加えると11,358kL(同7.7%減)となりました。

電力消費量は4サイトで44,243MWh(前年度比5.8%減)、他の国内生産拠点も加えると111,666MWh(同7.5%減)となりました。また、原単位(押出+電解の生産量当たりの消費電力)改善を目標として生産工程のスリム化を進めていますが、2020年度は電力削減分に比べて生産量の落込みが大きく、4サイトの原単位実績は前年度より7.2%悪化となりました。

燃料使用量(原油換算)



電力消費量



省エネルギー活動

実績 1 工場水銀灯および事務所・食堂等の蛍光灯のLED照明化(2016年に次ぐ第2次LED化)

「水俣条約」による2021年以降の水銀灯の製造・輸出輸入禁止や、内閣府による次世代照明100%化の動きを受けた大手照明メーカーの蛍光灯器具生産終了発表に加え、実態としても各メーカーの蛍光灯生産本数が減小傾向にあるなど、ここ数年で「照明の環境」は大きく変化してきました。

不二サッシリニューアルの本社工場では従来、作業ライン上には主に水銀灯を設置し、手元照明として蛍光灯を一部使用していました。また事務所、食堂、会議室、トイレ、倉庫の照明は全て蛍光灯でした。

そこで、前述の照明環境変化への対応として2016年に、まずライン上の水銀灯の大部分をLED化しました。さらに4年後の2020年には残りの水銀灯と、場内手元照明および事務所など全ての蛍光灯のLED化を完了しました。

こうしたLED化の効果として、使用電気料金は2016年で年平均16%削減となり、2020年にも前年対比18%削減を見込んでおり、大きな合理化が達成できています。その他、点灯速度が速まり瞬時始動となったこと、照度が上がって安全性や検品精度も上がったことの効果で全体的な作業環境が向上しています。さらにはLEDは耐久性が高く長寿命のため、今後のメンテナンスコストの削減も期待できます。

そして何より、照明LED化には地球温暖化対策としてCO_2削減効果があります。こうした活動の積み重ねにより企業としての社会的評価向上につなげていきます。

照明交換作業

交換後のライン

実績 2 工場内照明LED化の実施

しらたか不二サッシでは工場用照明に消費電力の大きい水銀灯を使用していましたが、2020年末から2021年始にかけてLED化工事を実施しました。

工場内の水銀灯全てをLED化することで電力使用量、CO_2排出量ともに前年同期より約40%削減できました。また、光建材事業部の協力を得て作成したLED化前後のシミュレーションにより適正な位置への付け替えができ、作業環境が向上しました。今後は事務棟や食堂の照明LED化を計画し、さらなる削減につなげていきます。

施工途中(奥は施工済み、手前は未施工) 完成後

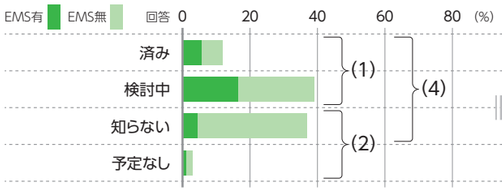
Scope3排出量に関する取り組み

サプライヤーにおける気候変動に関する世界的動向への対応状況

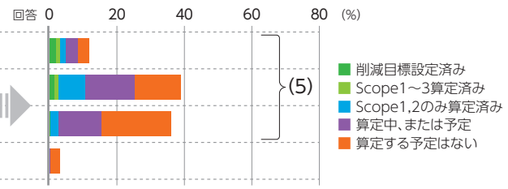
不二サッシでは社会全体の脱炭素化に寄与すべく、現在Scope3の排出量算定を進めていますが、それと並行して、当社への物品供給を担うサプライヤーが気候変動に関する世界的な動向についてどのように対応しているのかを調査しました。調査方法は、SDGs、SBT、RE100*1、TCFD*2およびサプライチェーン排出量算定についてどのような認識を持ち、また各取り組みをどの程度進めているのかをヒアリングしたものです。ここではその調査結果を報告します。

*1 企業の事業活動における使用電力の100%再生可能エネルギー化を目指す国際的なイニシアティブ。
*2 気候関連財務情報開示タスクフォース。企業が自社の財務に影響を及ぼす気候関連情報を開示するよう提言している。

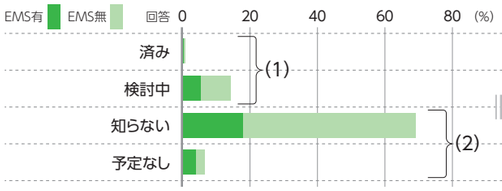
SDGs取り組み状況とEMSの有無



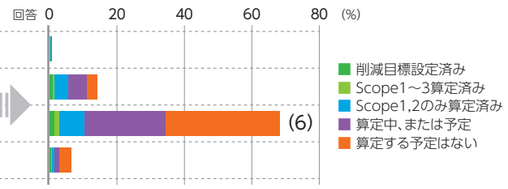
排出量算定状況



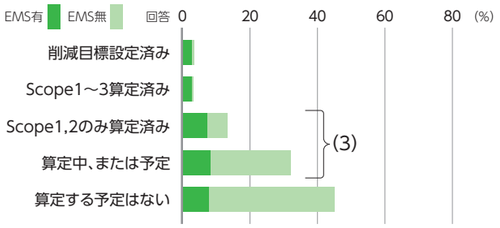
SBT認定・RE100・TCFD各取り組み状況とEMSの有無



排出量算定状況



サプライチェーン排出量算定状況とEMSの有無



対応済または検討中との回答は、SDGs賛同では51%、SBT認定・RE100加盟・TCFD賛同ではいずれも15%程度となりました(1)。一方、理解不足との回答はSDGsで37%、他3つの取り組みでは69%でしたが、対応予定なしは全て数%だったことから(2)、理解が進めば検討を始める取引先も出てくると考えています。

サプライチェーン排出量については算定途中が45%あり(3)、今後の進展が期待できる結果となりました。

また、これらの対応が進んでいるほど環境マネジメントシステム(EMS)構築済の割合も高い傾向が見られました(4)。1つ意識が改善されれば他にも波及する可能性があるという良い傾向であると捉えています。

SDGsへの対応と排出量算定の状況を照らし合わせると、EMSの場合と同様に、対応が進んでいるほど算定も進められている傾向が見られました(5)。一方、SBT・RE100・TCFDへの対応と排出量算定の状況を照らし合わせると、大半は理解不足との回答でしたが、その内で排出量算定予定のない取引先は半数に留まることが分かりました(6)。

総合的に見ると、SDGs・SBT・RE100・TCFDの3つ以上について、理解不足や予定なしという回答が多く見られました。さらに、これら4つの取り組みに対し理解不足とした取引先の多くは、排出量算定についても予定なしまたはScope1、2(自社範囲)までの算定に留まっていました。また逆に、4つの取り組みは理解していても排出量算定は途中という回答も多く見られました。

以上の結果より、当面の課題はSBT等への認識を広く取引先と共有することや、排出量算定のような具体的数値を伴う取り組みを促進することと言えます。

上記課題の1つ目に対しては、今回のヒアリングのような意識づけにつながり得る働き掛けを今後も継続していきます。課題の2つ目に対しては、まずは当社がSBT・RE100・TCFDや排出量算定について進め情報を開示し、先導する立場を築いていきます。

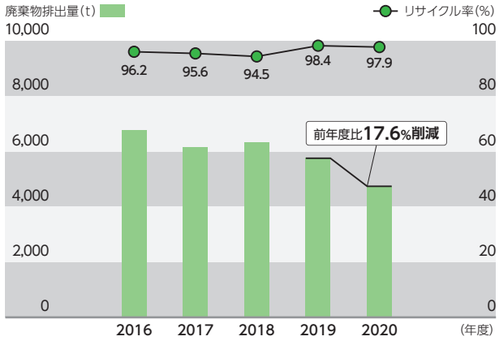
環境負荷の低減

廃棄物排出量の削減と3Rの推進

産業廃棄物排出量は、4,747tと前年度比17.6%減となりました。また、再利用・再資源化分が4,646t、リサイクル率は97.9%となりました。今後も、廃棄物排出量を削減した中で、ゼロエミッション*を達成できるように3R運動に取り組んでいきます。

* 廃棄物のリサイクル率97%以上。2017年度は、委託先廃棄物処理業者撤退によりリサイクル率は悪化。

廃棄物排出量とリサイクル率



化学物質の管理

生産段階で使用される化学物質の危険有害性や取り扱い・保管上の注意および緊急時の応急措置等をSDSで把握し、保管・管理を徹底しています。

PCBの管理

PCBを含むコンデンサ、変圧器、安定器について廃棄物の処理および清掃に関する法律の基準に沿って適正に保管・管理をしています。また、「ポリ塩化ビフェニル廃棄物等の保管および処分状況等届出書」により報告をしています。

PRTR法への対応

届出を行っているPRTR対象物質の2020年度の排出量、移動量は次の通りです。

単位：t/年

番号 化学物質名		309 ニッケル化合物	374 ふっ化水素及びその水溶性塩	405 ほう素化合物	412 マンガン及びその化合物
取扱量		6.07	3.00	3.17	0.97
排出量	大気	—	0.06	—	—
	水域	0.86	—	2.25	—
	土壌	—	—	—	—
使用量		6.07	3.00	3.17	0.97

※ 下水道および当該事業所の外への移動量はありませんでした。
※ マンガン及びその化合物はPRTR対象となる 1t未満でしたが、前年度同様に掲載しています。

環境マネジメント

不二サッシグループの環境方針

環境基本方針・行動指針に基づき、環境マネジメントシステム(EMS)を導入して環境保全活動を進めています。製造・加工段階での対策だけでなく、設計部門での環境配慮設計や施工部門での環境配慮、各部門でのペーパーレス化などを推進し、継続的な改善で経営効果に結び付けていきます。

基本方針

不二サッシグループは、環境との調和を"経営理念"実現の課題の一つとして、すべての事業活動において、一人ひとりが環境への優しさを創造して行動し、継続かつ積極的に改善を努め、「環境配慮型企業」をさらに進化させて「循環型企業」を目指す。

行動指針

不二サッシグループは、事業活動、製品及びサービスにおける全事業領域の活動として、以下の行動指針に従い環境保護に取り組む。

1. 環境保全活動による継続的改善と汚染の予防を図る
2. 法規制及び同意したその他の要求事項を順守する
3. 省エネルギー・省資源及び新エネルギー商品を開発する
4. 購入、製造、物流等の事業活動に伴う各段階で、省エネルギー・省資源及び3R(リデュース・リユース・リサイクル)を推進する
5. 化学物質による環境汚染を防止する
6. 環境教育と啓蒙活動を実施する

サプライチェーンに対する取り組み

当社はサプライヤーを事業活動における重要なビジネスパートナーと考え、公平公正・共存共栄を基本として相互信頼関係を築き、ともに発展していくことを目指した調達活動を展開しています。品質・納期・コストについては、当社の基準による評価点90点以上のサプライヤーの割合が前年度の22%から24%へ上昇するなどの全体的な改善が見られました。併せてEMS構築済のサプライヤー数についても27%増加しており、引き続きパートナー企業と協働して更なる活動の向上を図っていきます。

また、持続可能な消費と生産へ向けた活動として、「樹脂部品の材質刻印の推進」と「各生産拠点個別購買から集中購買比率向上の推進」の取り組みを継続しています。加えて、SDGsなどの社会的な動向に関して各企業の動向調査も行っています(P18詳細)。

環境教育

環境マネジメントシステムの理解と、環境意識の向上を図るため ①全従業員を対象とした一般環境教育 ②専門知識を必要とする従業員に対する専門環境教育を実施しています。また、優遇制度を設け、環境関係の公的資格取得を推進しています。

E 地球環境のために

法規制遵守

環境法規要求事項一覧表に基づき点検・管理を行っています。特に監視ポイント毎の現場点検、公害防止管理者の職務改善、環境教育およびコンプライアンス教育に重点を置いた改善活動を行っています。

緊急事態への対応

化学薬品や燃料の流出など、工場外への重大な環境汚染を未然に防ぐため、緊急事態対応マニュアル・手順書を作成し、手順書に基づく訓練を行っています。

環境会計・マテリアルフロー

2020年度の環境会計

環境保全コスト　　単位：千円

分類	主な取り組み内容	投資額		費用額	
		2019年度	2020年度	2019年度	2020年度
公害防止コスト	燃焼ガス処理施設、排水処理施設、監視施設	51,609	57,882	83,131	82,072
地球環境保全コスト	照明のLED化、省エネルギー等	5,144	0	33,403	26,262
資源循環コスト	廃棄物処理等	0	0	67,929	56,328
管理活動コスト	環境マネジメント、事業所緑地整備等	2,150	0	47,869	45,035
社会活動コスト	工場見学、地域清掃活動等	0	0	5,960	3,390
合 計		58,903	57,882	238,292	213,087

【集計範囲】不二サッシ（株）千葉事業所　　※ 環境保全に資する製品等の研究開発コストなどは含んでいません。

エネルギー使用量内訳

エネルギー	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
電気（MWh）	47,341	48,258	46,980	44,243
LPG（t）	1,690	1,804	1,864	1,867
都市ガス（千m^3）	1,400	1,522	1,564	1,366
ガソリン（kl）	174	173	128	110
軽油（kl）	28	25	24	20
灯油（kl）	0.5	5.1	6.9	6.9
環境負荷総量※（t-CO_2）	**31,667**	**31,454**	**31,028**	**28,259**

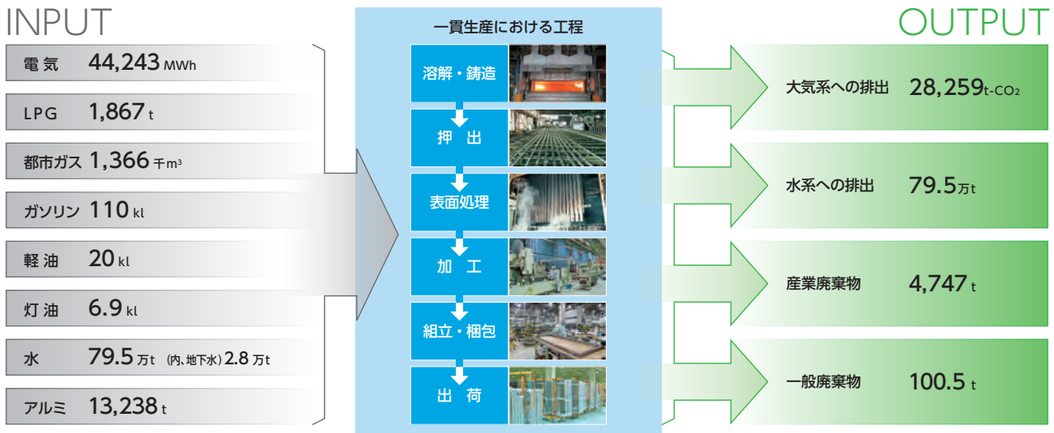
【集計範囲】
不二サッシ環境マネジメントシステム導入主要４サイト（本社、東京、千葉、関西）
※ 2019年度にCO_2換算の計算式を見直したため前年度までと数値が異なります。

環境負荷削減量（CO_2換算）　　単位：t-CO_2

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
環境保全未対策時の環境負荷総量	31,921	33,326	32,020	28,024
環境負荷総量	31,667	31,454	31,028	28,259
環境負荷削減量	**253**	**1,871**	**992**	**－235**

【集計範囲】
不二サッシ環境マネジメントシステム導入主要４サイト（本社、東京、千葉、関西）
※ 環境保全未対策時の環境負荷総量：
2002年度の原単位（2,116.9t-CO_2/千t）×当該年度の押出生産量（千t）
※（－）の付いた値は増加を示しています。

マテリアルフロー



S お客様とともに

製品品質・安全への取り組み

不二サッシグループ　品質保証体制

基本方針

コンプライアンス経営に基づいた安心、安全で地球環境に優しい商品づくりを通して、グループ全体で顧客満足に徹し、会社業績の貢献に向け邁進する。

不二サッシグループ　製品安全行動指針

不二サッシグループは、コンプライアンス経営の一環として、製品安全を経営上の責務と位置づけ、お客様に安心、安全な製品をお届けするために、グループ全体で製造・販売する製品の安全確保に努め、社会に貢献し、信頼される企業となるよう積極的に取り組んでいきます。

WEB 詳細は【トップ＞企業情報＞製品安全行動指針】

2020年度活動実績

品質管理活動報告

ISO9001・JIS取得状況

不二サッシグループでは、各生産拠点でISO9001およびJISマーク表示制度を取得するとともに、それに則った品質マネジメントシステムを構築し、グループ全体で品質活動の取り組みを強化し、品質レベルの維持向上を図っています。

取得工場一覧　　●：2015年度版への期限内移行完了

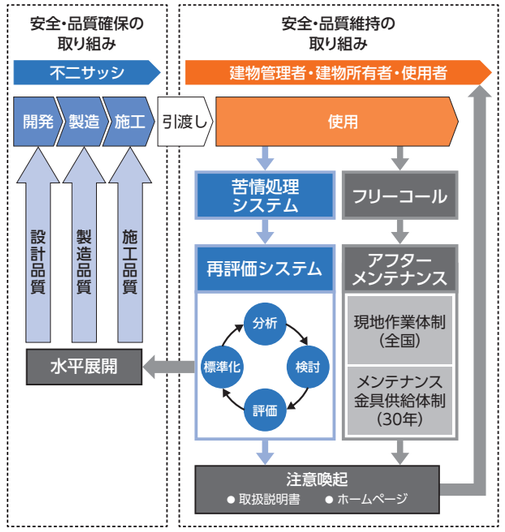
取得者／製造工場		ISO9001	JISマーク表示制度
不二サッシ（株）	千葉工場	●	○
	技術本部	●	－
グループ会社			
北海道不二サッシ（株）		●	○
しらたか不二サッシ（株）		－	○
不二サッシリニューアル（株）		●	○
日海不二サッシ（株）		●	○
関西不二サッシ（株）		●	○
（株）不二サッシ九州		●	○
（株）沖縄不二サッシ		－	○
FUJISASH PHILIPPINES,INC.		－	○
不二ライトメタル（株）	本社工場	●	○
	東日本事業部	●	○

中央規格委員会（5月）、品質管理委員会（四半期）の開催を通じて、品質情報、改善情報を共有し、FSK規格等の品質基準策定につなげました。また、不二サッシ版品質マニュアルに基づく、グループ内の品質マネジメントシステム（QMS）の2015年版への移行状況を確認しました。

CS推進活動報告

苦情処理対応

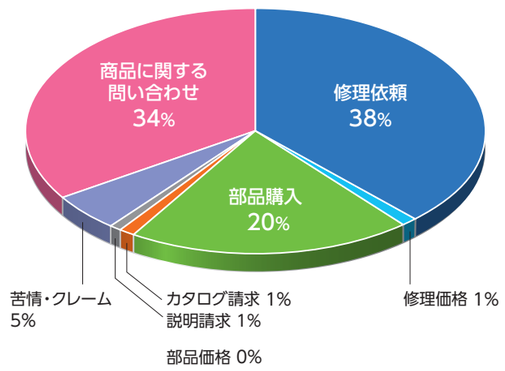
お客様からの苦情・クレームは担当拠点（支店、営業部門）が受け付け、調査、対策を協議し、対応します。苦情・クレーム対応の情報は、苦情処理システムで品質保証部が受け付け、改善が必要な事象については、「再評価システム」で分析、検討、標準化を行ない恒久対策を講じます。これらの情報や対策は、各部門の情報ツールを通じて水平展開し、再発防止につなげています。また、新商品を開発する際の確認項目として用いられています。



お客様相談窓口

お客様からのフリーコールで商品問い合わせ、修理部品の購入、メンテナンス依頼に関する問い合わせが寄せられた場合、迅速な対応をするため、在住エリアを認識し、直接、担当地域の窓口につながるシステムを採用しています。

2020年度「お客様相談窓口」受付内容の内訳



不二サッシグループ各社の活動

絶滅危惧種「ヒメコマツ」生育固体の保全

不二サッシ千葉工場

千葉事業所では、千葉県が最重要保護生物に選定した絶滅危惧種「ヒメコマツ」※の保護回復取り組みに参加し、2020年度から「ヒメコマツ」を育てています。これは県のヒメコマツ回復計画における「ヒメコマツ系統保存サポーター」という取り組みであり、参加者または団体は県から苗を受け取り、育成・管理し定期的に報告することによって、ヒメコマツの遺伝系統保存に協力するものです。

※ ヒメコマツ
ゴヨウマツとも呼ばれ、標高の高い山地など寒冷な地域に生育するマツ科の常緑針葉樹で、千葉県では他県と比べて著しく温暖な地域に生育しています。房総半島では最終氷期の遺存植物として地史的・地理学的に非常に重要な個体群であるとされ、1970年頃までは房総丘陵に数千本も生育していたとされていますが、近年大量に枯死し、現在は約80本にまで減少し絶滅の恐れが極めて高くなっています。

いちはらアート×ミックス2020+への協賛

不二サッシ千葉事業所

「いちはらアート×ミックス」とは、千葉県市原市がブランドメッセージとして掲げる「里山」を主な舞台として地域の持つ様々な資源を現代アートと融合し、里山に活力を漲らせ、より魅力的な「いちはら」を再発見する新しい形の芸術祭です。過去2014年、2017年に開催され、現在第3回が予定されています。

不二サッシはコミュニティ参画の一環として、この「房総里山芸術祭 いちはらアート×ミックス2020+」に協賛しています 。

なお、「房総里山芸術祭 いちはらアート×ミックス2020+」は現在、新型コロナウイルス感染症対策の徹底に伴い、全ての来場者および関係者にとって安心な状況で開催するため会期・開催方法が見直されています。不二サッシは、いちはらアート×ミックスのオフィシャルパートナーとして、今後もその開催と成功を期待し応援してまいります。

協賛活動内容

1 サイクルラックの寄贈

「房総里山芸術祭 いちはらアート×ミックス2020+」には複数の開催予定エリアがあります。不二サッシ千葉事業所は、市原市より駐輪場設置の相談を受け、開催予定エリアの一つ「月出」にある月出工舎様に当社製サイクルラック(商品名:フィットスライド)を寄贈しました。

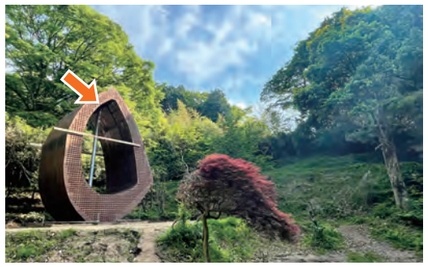
寄贈したサイクルラック(背後は小学校校舎)

2 作品材料としてアルミビレットの提供

開催予定エリア「月出」は"みんなでつくる新しいがっこう"月出工舎 (ARS TSUKIDE)として運営され、廃校となった旧月出小学校を舞台として様々なプロジェクトが展開されています 。

その中で、月出工舎に隣接する森の斜面に沿って上った場所にある作品「ほとり ho to ri」の材料として、当社のアルミビレットを提供しました。月出工舎総括ディレクター岩間様によると、この作品は『表面全体にわずかな隙間を設けて、太陽光と風が通るようにし、持続的に養蜂に取り組める機能を有しています。自然環境から「与え×もらい×分かち合う」ことが成り立つ生態系をつくりだします』

また、岩間様は当社アルミビレットを選んだ理由を次のように語られています。『本作品の大黒柱として、軽量かつ単位重量当たりの強度が大きく、耐食性が良いことに加え、非磁性体であり、重金属のように人体を害したり土壌を痛めたりせず、リサイクル性にも優れていることなど、地球環境保全の点からも考え、この素材を選びました。また、素地のままでも美しい金属ですが、手仕事による表面処理を施すことで周辺の景色や太陽光などを映し込むことができ、蜂巣箱の成長とともに表情が変化していくことでより美しくなっていくと思っています 』


ビレットを提供した作品(矢印の指す柱がビレット)

飛沫ガードの寄贈

不二ライトメタル・しらたか不二サッシ

不二ライトメタルでは、九州の人吉・八代・芦北地区の社会福祉協議会へ飛沫ガードを寄贈しました。

各協議会からは、今まで手作りの簡易的なものを使用していたため、本格的な飛沫ガードを喜んでいただけました。また軽量で持ち運びできることに感動され、ボランティア活動時にも使用できるとのお言葉もいただきました。

しらたか不二サッシでも取引先へ飛沫ガードを寄贈しました。不特定多数の方が利用する銀行に置いていただけたことで認知が広がり、様々な企業や宿泊施設等に利用していただけ、感染防止の一助となりました。

社会福祉法人芦北町社会福祉協議会
芦北町地域包括支援センター

社会福祉法人人吉市社会福祉協議会

社会福祉法人八代市社会福祉協議会

きらやか銀行荒砥支店

緑のカーテン取り組みを継続

しらたか不二サッシ

しらたか不二サッシでは2015年から取り組む「緑のカーテン」設置を2020年度も実施しました。2019年度のゴーヤの成長過程で除草作業を怠り成長が遅れた反省を踏まえ、除草作業を徹底したところ見事に葉が茂り直射日光を遮ってくれました。また、300個以上の収穫が有り、毎年心待ちにしている近隣の方にも配ることができ大変喜んでいただきました。今後も毎年継続し取り組んでいきたいと思います。

献血活動

不二サッシグループでは、従業員等を対象にした献血活動を毎年実施し、血液不足の現状を解消するため、日本赤十字社に協力しています。

2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大により献血をする人が減少している中、日海不二サッシでは例年並み、千葉事業所では昨年よりも多くの方が献血を行いました。

今後も積極的に協力し、活動を継続していきます。

清掃活動

不二サッシグループでは毎年、各事業所の周辺や河川敷、公園等の清掃活動を行っています。2020年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で地域のボランティア活動が中止となり、事業所周辺の清掃活動が中心となりましたが、しらたか不二サッシでは近隣公園の駐車場の清掃活動、日海不二サッシでは大雪の際、近隣の生活道路の除雪作業など地域に密着した活動も行いました。また沖縄不二サッシでは定期的な事業所周辺の清掃活動を通して、台風や大雨時に側溝が詰まり雨水が溢れることを防ぎました。

今後も活動を継続し、地域に貢献できるよう努めてまいります。

しらたか不二サッシの清掃活動

沖縄不二サッシの清掃活動

S 従業員とともに

TOPICS

新型コロナウイルス感染症対策と働き方改革

新型コロナウイルス感染拡大防止策として、従来は限定的に実施していた「在宅勤務」の対象者を拡大しました。また、首都圏を中心に公共交通機関の混雑緩和のための「時差出勤」や、会議室でも執務可能として勤務場所を分散化するなど、「3密」を避ける取り組みを継続して実施しています。各拠点・各会社の事業特性を考慮した上で、仕事環境の整備や仕事の仕方を工夫し、全社一丸となり感染拡大防止に努めると同時に働き方自体を見直しています。

不二サッシリニューアル

不二サッシリニューアルは既設建築物の改修が主な事業であるため、在宅勤務が可能な社員は設計等の部門に限られていましたが、時差出勤による通勤時の混雑回避や、時短勤務によるオフィス滞在時間の短縮により感染防止を図りました。

コロナの影響で工事が先送りされるケースもあり厳しい事業環境でしたが、効率の良い仕事を行うことができました。

山口不二サッシ

2021年2月に事務所入り口と手洗い場の2ヵ所に、足踏み式消毒液ポンプスタンドを設置しました。担当した高坂T長と柴田工師は、アルミ端材、木材、プレス機用のフットスイッチ、バネ等を組み合わせてそれぞれの設計で製作。足踏みの力加減で消毒液の出る量が変わるため、調整が非常に難しく苦労しましたが、見た感じから手作り感が出ていることもあり、取引先の皆さんにも大切に使っていただいています。

高坂T長

柴田工師

不二サッシ環境事業部

環境事業部では2020年4月よりテレワークを実施しています。当初は在宅用ツールが少なく会社のパソコンのリモート操作も不十分であったため書類作成が主体でしたが、現状はハードウェアも揃い、リモート操作でCAD作図もできる状態になっています。

なお、当部では月初に決めたスケジュールを基に在宅勤務表を作成して実施しており、新型コロナウイルス感染拡大防止の一助として、出社率の低減に努めています。

また、テレワーク用のハードおよびソフトウェアの普及により、顧客や業者、現場およびテレワーク対応者等とのオンライン会議も行っており、交通機関の利用軽減による人流抑制にもつなげています。

社内インターンシップ制度

2017年に発足した女性活躍推進プロジェクトで提案され、2018年7月より運用開始した「社内インターンシップ制度」を従業員の能力開発やキャリア形成に役立てています。

VOICE 渡部 妙　不二サッシ(株) 東京支店

2020年8月から約5ヵ月間、経理部への社内インターンシップ制度を利用させていただきました。入社以来、同じ業務の経験しかなかったため、スキルアップを目指し、また今後の業務に役立つ勉強がしたいと思い経理部を選びました。
私がインターンシップに行ったタイミングで新しいプロジェクトが始動しており、そちらに参加することができました。そこで、他部署の業務内容を聞く機会があり、より会社を知ることができ、とても良い経験になりました。全部門が関わる部署にインターンシップに行かせていただいたことで、自分の部署だけでなく、視点を広げた仕事をしていくという、新たな目標ができました。それと、いろいろな方と仕事をすることにより、自分の業務の進め方を考えるきっかけにもなりました。
送り出してくださった現部署の皆様、また受け入れてくださり、指導してくださった経理部の皆様本当にありがとうございました。
インターンシップは、双方の部署の調整が必要となる制度ですが、教育メニューをマニュアル化する等により、今後もっと柔軟にこの制度が利用できるようになることを期待しています。

しが障害者施設応援企業

社会福祉法人メイプルは、障がい者の就労継続支援を行う事業場として 1995年、滋賀県に誕生しました。設立当初から不二サッシ大阪工場（現・関西不二サッシ）の技術指導を受け、面格子、ガラリといった建材製品を製造しています。現在、男女８名の障がいのある方々が不二サッシの社員として勤務しています。これからも、不二サッシは、メイプルとともに障がいのある方々の活躍を支援してまいります。

2020TDM推進プロジェクト

みんなで混雑をなくそう！
TAKE ACTION
2020TDM推進プロジェクト

不二サッシは、東京都の呼びかけに応じ「2020TMD推進プロジェクト」に協力しています。テレワーク・時差出勤の推進や、配送時間・ルートの変更など、交通混雑緩和に向けた「スムーズビズ」に取り組んでいます。

人権の尊重

人権に対する基本的な考え方

不二サッシ行動規範の一つ「私たちは活力あふれる気風づくりに努めます」は、全社員が一致協力して、お互いに尊重し合い、認め合い、持てる能力を最大限に発揮する社風を築いていくことを示しています。不二サッシは、働きがいのある、ハラスメントのない職場環境づくりを目指しています。

女性活躍の推進

女性活躍推進法「一般事業主行動計画」策定

女性従業員の個性と能力が十分に発揮できる働く環境整備を行うため、、当社における状況を踏まえ行動計画を更新しました。

1. 計画期間
2021年(令和3年)4月1日から2026年(令和8年)3月31日

2. 当社の課題
(1)女性の採用数が少ない(特に専門職種)。
(2)正社員と同等の業務を担っている非正社員の雇用環境改善が進んでいない。

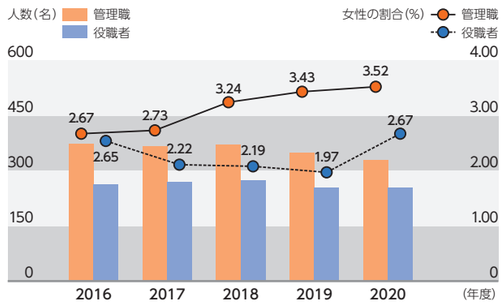
3. 計画内容

目標1：採用者に占める女性割合を30%以上とする
〈 取り組み内容 〉
- 求職者に対する積極的な広報(特に、専門職種に対する広報)。
- 育児・介護・配偶者の転勤等を理由に退職した社員に対する再雇用制度の導入・利用促進。

目標2：専門職種に占める女性割合を30%以上とする
〈 取り組み内容 〉
- 職域拡大のための情報提供。
- 一般職種を対象とした研修制度の導入。

目標3：非正社員の職種・雇用形態の転換を実施する
〈 取り組み内容 〉
- 非正社員の処遇を見直す。
- 非正社員を対象とした職種・雇用転換を促進する。

管理職・役職者に占める女性の割合

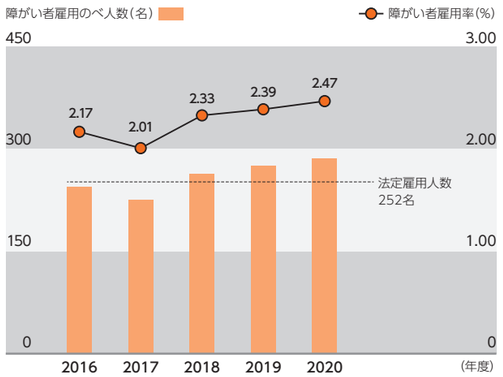


障がい者雇用

不二サッシは、社会福祉法人メイプルの運営等を行い、社会的責務を果たすべく、障がい者の就業に努めています。障がい者雇用は、障がいのある方が障がいのない方とともに一般企業においてごく自然に働けるという「ノーマライゼーション」の理念に基づいています。

不二サッシは、コンプライアンスの観点からも、また、企業の社会的責任を果たすという観点からも障がいのある方の活躍に向け全社を挙げて取り組んでいきます。

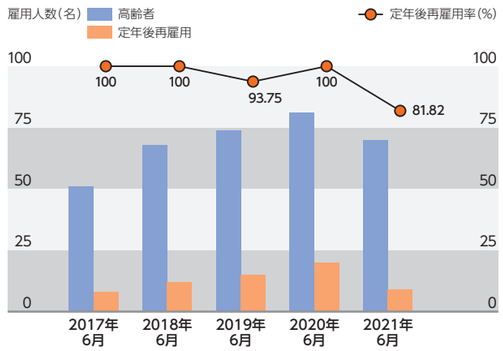
障がい者雇用実績



高齢者の再雇用

高齢者雇用は、少子高齢化が急速に進展し、人口減少に伴う労働力不足という中長期的な視点からも重要な課題です。不二サッシは、定年後も継続して勤務できる再雇用制度を導入し、就業機会を確保するとともに、それぞれの経験と知識を活かし活躍する環境を整えています。

高齢者雇用と定年後再雇用の実績



人材育成

人材に対する基本的な考え方

不二サッシは、企業発展の原動力は優秀な社員であるとの認識に立ち、次の目的に沿って教育訓練を行います。

① 会社の経営理念および経営方針に則り、会社の発展に貢献できるとともに、仕事に生きがいをもった創造的な社員の育成を図る。
② 経営およびそれをとりまく社会情勢や技術革新の進展に伴って要求される能力要件が変化しても、それに対応できるような応変能力のある社員の育成を図る。

教育訓練の種類　① 階層別集合研修　② 職場研修（OJT）　③ 自己啓発支援研修　④ 海外語学研修教育

教育・キャリア支援

社員各自の自己啓発意欲を喚起し、それを促進する目的で通信教育の紹介、受講料の援助をしています。また、公的資格取得者には毎月手当を支給することで資格取得促進を図っています。

通信教育受講者数の推移　単位：名

分類	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
階層別	42	47	35	17
自己啓発	15	11	9	5
部門長推薦	20	33	42	30
全体	**77**	**91**	**86**	**52**

新型コロナウイルス感染拡大防止のため集合研修開催を控え、新たなスタイルを取り入れた研修を実施しました。その一つが、リモート会議システムを活用した新入社員研修です。研修用動画を視聴、各個人が課題に取り組みます。その後、グループごとに話し合い、その結果を発表し、それに対して講師がコメントするといった内容です。これを、WEBで実施します。

適材適所の人材配置

年1回、従業員自らの考え（業務を行う上での自己評価、職場について感じていること、自らのキャリア形成、能力開発のために今後やってみたい職務等）を自己申告書に記録し、それをもとに職場の上司と話し合います。自己申告書は、従業員の適正配置、能力開発、教育指導等の参考にします。

公正公平な人事制度

職能資格制度に基づいて従業員の能力、成果、意欲を公正に評価することが、各人の能力、資質と士気を向上させ、適正な人事上の処遇（異動、配置、昇格、昇給、賞与および教育訓練等）につながります。

グローバル人材の育成

不二サッシフィリピン社（フィリピン共和国）に、「不二サッシ設計センター」を置き、現地従業員を日本国内で設計研修を行い、設計スキルの向上に努めています。また、優秀な現地従業員を、不二サッシに転籍させることで日本国内の事業場において一緒に仕事をする環境を作っています。

また、ベトナム籍の専門技術者を高度外国人材として採用しています。社内における日本語教育も充実させたことで、国内拠点での活躍につなげています。

労働安全衛生

労働安全衛生に対する基本的な考え方

「安全衛生は全てに優先する。安全衛生なくして生産性、品質の向上無し」という、トップの決意のもと、決めたことは守り、守らせて、不安全状態、不安全行動を完全に排除する職場づくりをすることを安全衛生管理の基本方針としています。

従業員の健康増進

不二サッシは不二サッシ健康保険組合と協同で、毎年実施する特定検診（定期健康診断）特定保健指導等により、従業員の健康状況を把握し、疾病の早期発見と予防のための適切な管理を行なっています。

なかでも、日本人の2人に1人が「がん」になると言われており、その「がん対策」として早期発見、早期治療のため、希望者を対象に「人間ドック」「乳がん検診」「子宮がん検査」「前立腺検査（PSA）」の受診補助を実施しています。また、健康診断結果をもとに、再受診の勧奨や特定保健指導などのフォローを行っています。

2020年度の受診状況　単位：名

分類	対象者数	受診者数	受診率
前立腺検査（PSA）（45歳、50歳以上）	422	415	**98.3%**
乳がん検診	228	103	**45.2%**
子宮がん検査	228	81	**35.5%**

※ 被扶養者を含む

人間ドック補助利用者	本人 28	家族 5

被扶養者健康診断	主婦検診	事業所検診	集合契約	計
	106	18	9	133

生産拠点安全衛生アンケート

2020年11月、不二サッシでは生産拠点に勤務する従業員および協力会社の従業員を対象に、自社の安全に関する取り組みを各々がどのように認識しているのか、課題は何かを視覚化するために安全衛生実態アンケートを実施しました。

アンケートは組織的・人的側面に焦点をあて、従業員の安全に関する知識や行動の度合、階層間、部門間のギャップなどの実態の把握につながる質問で構成しました。

アンケートでは全体的に良好な結果となりましたが、安全衛生に対する姿勢、意識として危険予知トレーニング（KYT）、リスクアセスメントの実行レベルについて改善の余地があるという考えが一定数見られたため、現状の再確認が必要だと考えています。また職場の整理整頓、清掃などの実行レベルに対する評価が若干低く、潜在的な危険が隠れている可能性が見えました。

教育・支援については認識度に個人差が見られたため、全体だけでなく個人に注目した理解度と、個人の教育・支援を受けられたという満足度を向上させる教育の必要性が顕在化しました。若手従業員にはさらに継続して教育を行い、経験を積み上げてもらうことが、将来的にグループ全体の安全衛生活動の発展につながると考えています。

アンケート結果（抜粋）　単位：%

質問	思う	思わない	その他
災害が起きないように取り組んでいるか	83.7	11.6	4.7
災害が起きた際、ルールに基づいて報告しているか	84.0	9.5	6.5
災害が起きないよう予防活動が行われているか	69.4	21.7	8.9
5Sは行われているか	60.8	38.2	1.0
教育は十分に行われているか	59.5	19.9	20.5

令和2年度労働安全優良事業場「優良賞」を受賞

不二サッシ千葉工場は、一般社団法人日本アルミニウム協会が選考する「令和2年度 労働安全優良事業場表彰」において、「優良賞」を受賞しました。

この表彰は、社員の「休業および不休業災害、直近3年間ゼロ」が条件であり、日本アルミニウム協会安全委員会の推薦を受け理事会で決定し贈られるもので、通算5回目の受賞となりました。

千葉工場では、今後も職場および従業員の安全と安心を確保していくため、「安全朝礼」をはじめ「環境安全パトロール」「安全衛生委員会」「安全衛生協議会」「衛生推進委員会」等様々な活動を継続し、社員の意識向上に取り組み、「労働安全衛生規則第96条（火災又は爆発）の届出事故ゼロ」と「構内協力会社の休業および不休業災害がゼロ」を含めた「特別優良賞」を目標にしていきます。

ワークライフバランス

介護支援

年次有給休暇の全てを半日ずつ使うことができます。また、2年経過で消滅してしまう年次有給休暇を「有給休暇積立制度」として、さらに1年間使うことができます。

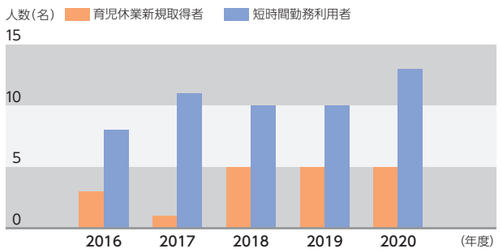
柔軟な勤務制度

「時間を有効に活用する」テレワーク勤務（在宅、サテライト、モバイル）の実施も、働き方改革の施策のひとつです。

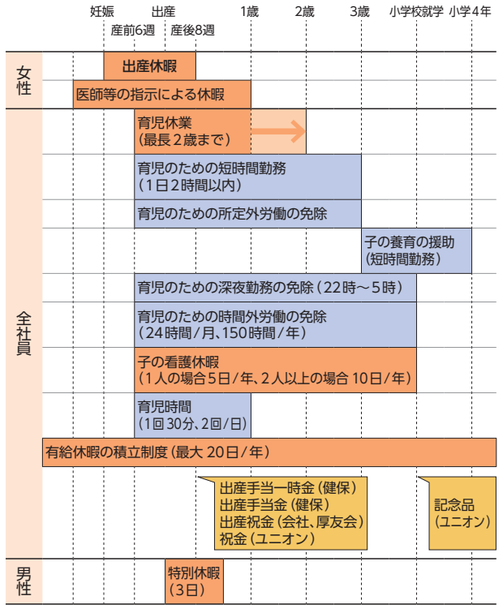
仕事と育児の両立

育児休業期間が終了し、職場復帰後も、小学校第3学年が終業するまでの間、短時間勤務ができる育児を援助する制度を導入しています。

育児支援制度利用者数の推移



育児に関する人事制度



コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンスの基本的な考え方

当社のコーポレートガバナンスに関する基本的な考え方は、当社グループ全体の企業価値の向上と強固な経営基盤の構築を通じて、お客様に信頼され、社会に貢献し続けるという経営基本方針を実現するため、責任ある経営体制の確立と、経営の透明性向上並びに経営に対する監視・監督機能の強化に努めることで、ガバナンスの強化を図っています。

基本原則1　株主の権利・平等性の確保

当社は、株主の権利確保、その適切な行使、および株主の平等性を確保するべく対応いたします。

基本原則2　株主以外のステークホルダーとの適切な協働

当社の持続的な成長と中長期的な企業価値の創出は、従業員・顧客・取引先・債権者・地域社会をはじめとする様々なステークホルダーによるリソースのご提供やご貢献の結果であることを十分に認識し、これらのステークホルダーとの適切な協働に努めてまいります。

基本原則3　適切な情報開示と透明性の確保

当社は、株主や投資家等との建設的な対話が可能となるよう、会社の財政状態・経営成績等の財務情報のほか、経営戦略・経営課題、リスクやガバナンスに係る情報等の非財務情報に関して、適宜解かりやすい情報提供に積極的に取り組んでいきます。

基本原則4　取締役会の責務

取締役会は、株主に対する受託者責任・説明責任を踏まえ、会社の持続的成長と中長期的な企業価値の向上を促し、収益力・資本効率等の改善を図るため、独立した客観的な立場から、取締役および執行役員に対する実効性の高い監督を行います。

基本原則5　株主との対話

当社は、株主との建設的な対話を促進するために、会社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を目指したビジョンを策定し、当社の経営方針を分かりやすい形で明確に説明し、株主の理解が得られるよう努めています。

コーポレート・ガバナンス体制

当社は、会社法上の機関設計として、監査役会設置会社を選択しており、監査役会は、適法性、妥当性の面から取締役の職務執行状況の監査を行っています。

取締役会は、経営上の重要事項の決定と業務執行の監督を行っています。当社では、監督機能の強化を図るべく社外取締役を選任しています。

また、執行役員制度を導入し、経営と業務執行を分離して機能・責任の明確化を図っています。社内の意思決定機関として、取締役、執行役員などで構成される経営会議を毎月１回以上開催し、意思決定の迅速化を図っています。

なお、社外取締役、社外監査役からは、四半期ごとに関係役員と意見交換会を実施し、社外役員の意見を取り入れる機会を設けガバナンス機能を強化しています。さらに年に１度、取締役および監査役に対して、取締役会に対するアンケートを実施し、取締役会の実効性に関する分析・評価を行い、経営上重要な事項の意思決定機関として機能していることを確認しています。

主な機関の概要

取締役会

当社の取締役会は、経営の監督機能が適切に発揮されるよう、当社の持続的な成長と中長期的な企業価値向上に資する資質を備えた構成としており、現在、取締役8名(うち独立社外取締役2名)、監査役3名の計11名で構成しています。

取締役会は、原則として月1回の開催のほか、決算承認等で2020年度は、年間17回の開催を実施し、当社および当社グループの重要な経営方針の決定、業務執行の監督、業務執行状況の報告等を行っています。

監査役会

当社の監査役会は、現在、常勤監査役1名、社外監査役2名(うち独立役員1名)の計3名で構成しています。監査役会は、会社の内部統制システムや内部監査部門、会計監査人との緊密な連携を活用しつつ、監査役会が定めた監査方針に従って年度の監査計画に基づく監査を実施し、監査役会において、監査の実施状況や結果に関する情報の共有や意見の交換を行っています。

役員報酬

報酬等の決定に関する方針

当社取締役および執行役員の報酬に関しては、独立社外取締役が参画する「役員人事・報酬協議会」において以下の方針に則り、個別役員の報酬額の案を協議のうえ策定し、取締役会において決定しています。

a. 基本方針

当社の取締役の報酬等の基本方針については、客観性・透明性を確保し、取締役の業績向上へのモチベーションおよびコミットメントを高め、業績目標の実現と企業価値の増大に寄与するために有効に機能する役員報酬制度とする。

b. 報酬構成

当社の取締役の報酬構成については、月例の固定報酬である役位別基本報酬と、業績に応じて変動する業績連動報酬で構成する。社外取締役の報酬は、その役位と独立性の観点から、役位別基本報酬のみで構成する。また、役位別基本報酬については、各役員の責任の規模や大きさに応じて設定する役位ごとの設計とする。

c. 業績連動報酬

当社の取締役の業績連動報酬等については、短期業績連動報酬として、単年度の個別当期純利益および親会社株主に帰属する当期純利益を算出基礎とし、役位ごとに定める基準に基づき決定し、当期純利益の増減により、業績報酬分が変動する設計とする。

当社は、より高い経営効率を目指しており、当期純利益を重要な経営指標としているため、このことから当期純利益を業績連動報酬の指標としている。

取締役会の実効性評価

当社は、取締役会が有効に機能しているかを検証するため、2020年度において、各取締役による自己評価等を実施し、運営面の確保および審議の内容に関して分析しています。また、「意見交換会」において、独立社外取締役の適切な関与・助言を得て、取締役会のさらなる強化につなげています。

当社連結子会社による不適切な会計処理の再発防止策について

当社から当該子会社に新社長を派遣し、経営の刷新を行ったほか、当社と同一の会計システムを導入しシステム制御を図るとともに、当社管理部門における可視化を実施しました。

また、当社による子会社管理については、当社各本部における機能ごとの縦割り管理による弊害を是正するため、子会社管理の統括責任の所在を明確化し、さらに各本部に係わる情報の共有化を図ることで、子会社への相互監視ならびに牽制機能を高めました。

（社外役員の意見）

会社の基本的な方針、方向性、戦略等（生産性向上・重点施策等）について、さらに明確化し、営業、生産、技術、管理の各本部が連携して深化させ、一丸となって課題を克服することが求められる。具体的な課題のフォローの状況、進捗状況の報告等を会議に提出し、迅速に対処することが必要だと感じている。

（社内役員の意見）

子会社の不適切会計に伴う再発防止策について、適切な議論、指示は十分行ってきたつもりであり、今後とも再発防止に向けての管理手法と経過報告を適時求めることで周知徹底させていきたいと思う。

コンプライアンスの推進

コンプライアンスセミナー

2020年度は、新型コロナウイルス感染対策の対応に伴い、現地で多数での集合研修が困難なため、WEBを利用したリモート研修や、録画を利用したセミナーを開催しました。録画は時間の制約がなく、また重要箇所を何度でも繰り返し視聴できるなどメリットも多く、受講者からは高評価を得ました。

コンプライアンス監査

2020年度はコロナ禍の中、緊急事態宣言が解かれていた期間内において、新たにグループ会社となった日本防水工業(株)等のコンプライアンス監査を実施しました。

ホットライン

当社では、法令違反や社内規定違反を相談する窓口として、内部通報制度である「企業倫理ホットライン」を設けています。社内報に「企業倫理ホットライン」の通報先を掲出するなど社内周知を行い、第三者機関の窓口を利用することで、通報者の保護と適正な処理を行い、問題の早期発見と解決を図っています。また、その運用・通報状況について定期的に取締役会に報告を行っています。

G コミュニケーション

ステークホルダーとのコミュニケーション

関係会社社長会

不二サッシグループでは2020年7月、感染症拡大防止のためにWEB会議システムを活用した関係会社社長会を開催しました。

会議では、業績だけでなく経営の透明性とガバナンスを重視するグループ一体経営の重要性についての訓示や、2019年12月に発覚した当社連結子会社による不適切な会計処理の事例解説、調査委員会による調査を経て策定された再発防止策の説明、各事業本部の年度方針の伝達が行われました。

不二サッシグループでは今後も、グループのガバナンス体制強化と不二サッシ・関係会社相互の積極的なコミュニケーションを図っていきます。

定時株主総会　2021年度

2021年6月29日川崎日航ホテルで第40期定時株主総会を実施しました。コロナ対策のため、株主様へ議決権の書面およびWEBでの事前行使を促し、来場を控えるようお願いしたところ、株主様のご理解もあり、株主様の当日出席は21名(うち委任状2名)となりました。

本総会の決議事項

1. 剰余金の配当：当社普通株式1株につき1円
2. 取締役8名選任：吉田勉、岡野直樹、江崎裕之、植田高志、新野伸宏、石井浩、緒方右武、鈴江孝裕
3. 監査役1名選任：佐橋広司
4. 監査役補欠者2名選任：吉原和仁、布施明正

各議案とも賛成多数で承認可決しました。

WEB会議の活用で時短と経費削減

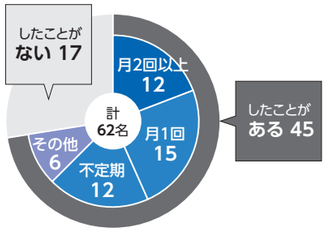
新型コロナウイルスの蔓延により、人との接触を極力避けるために大人数会議等に対し工夫が必要となり、営業部門では取引先や現場での打合せにWEB会議の利用が増えてきました。

取引先の中でも株式会社長谷工コーポレーション様は以前からIT技術の活用に着目されており、対面での打合せをWEB会議へと変化させようとされていました。そのためにパソコンなどの設備環境をいち早く整え、WEB会議の有効活用につなげられていました。

こうした状況を踏まえ、今回不二サッシ社内でWEB会議の活用状況に関するアンケートを実施しました。その結果、移動時間や交通費など経費の削減、コロナ禍で移動制限がある中でも打合せができる等、多岐にわたりメリットがある反面、WEB会議自体に慣れていないため発言のタイミングが取りにくい、対面とは違い感情が読みにくく意思疎通を図りにくい等のデメリットも挙がってきました。また社内的に、通信環境整備や通信機器および、会議を行う場所の不足など問題点も浮き彫りになりました。

今後はこれらの状況を改善し、WEB会議のメリットを活かせるよう、社内の整備を進めていきます。

WEB会議の活用状況



会議の相手先

ゼネコン	31
設計事務所	2
業者、その他会社	7
社内	14

良い点

経費の削減	7
移動時間の削減	31
コロナ対策	10
その他	8

悪い点

意思疎通が難しい	7
通信環境の不具合	5
通信機器の不足と不具合	6
操作方法がわからない	3
発言のタイミングが難しい	4
その他	12

VOICE

佐藤 高行
不二サッシ(株)　東京支店　営業二部

当初は対面での打合せに慣れているため不安がありましたが、事前に資料を共有することにより理解度も深まり要点もつかみやすくなったと感じています。また対面での打合せ時には当社社員が会議の場へ出向いていましたが、WEB会議では場所にとらわれず会議が行え、移動時間、費用も抑えられ人との接触も避けられました。

第三者意見

日本マネジメント総合研究所合同会社
理事長
戸村 智憲様

元・国連の専門官として、国連戦略立案業務専門官リーダー、内部監査業務、SDGs・ESG関連の実践指導・普及啓発などを担当。国連退官後、岡山大学大学院非常勤講師、経営行動科学学会理事、上場IT企業のアドバイザー、コーポレート・ガバナンス・アワード大賞選考委員長などを歴任。

元・国連の専門官としてSDGs・ESG関連の普及啓発にあたり、上場各社の取締役・監査役などを指導する立場にあり、官公庁関連の有識者・監査専門委員などを担当してきた当職が、不二サッシ株式会社のCSR全般に関する独立的・客観的な観点から第三者意見をご提供致します。

なお、当該意見は、COVID-19の渦中につき感染症対策を最優先し、フルオンライン対応でのヒアリング調査・資料確認などで把握し得る範囲で取りまとめており、隠れたる問題や今後の問題などが無いことなどを保証するものではありません。

サステイナブルな取り組み姿勢

「無理なく無駄なく理にかなって相互に幸せになりつつ長続きする」取り組み姿勢が、グループ全体のガバナンスを通して健全に見受けられます。

環境負荷低減と利益向上への稼ぐ力の強化（コスト低減も含む）などでは、サプライチェーン全体での取り組み意識と併せ、エコドライブやホワイト物流や製造ライン上の照明LED化など、環境にも利益向上にも良い取り組みが見受けられます。

環境経営・マテリアルフローのCO_2換算での数値は一時的に微増となったものの、脱炭素社会へ向けたScope1+2においては、CO_2排出量自体は年度を重ねるごとに減少傾向であり、漸進的に健全な取り組み姿勢と評価し得えます。

絶滅危惧種の生態系の多様性保全活動や、廃棄物排出量の最小化およびリサイクル率向上への継続的な取り組みをはじめ、グループ全体でのペーパーレス化の取り組みなどは、同社が社会から高い評価に値します。

新しい経営様式と稼ぐ力やDX推進について

同社製品が令和2年度日本アルミニウム協会賞（開発賞）の受賞（感染症対策でも環境負荷低減でも重要な自然換気システム）をはじめ、デザイン性・機能性も併せた光建材や、レジリエンス強化に役立つフロントサッシなど、社会的要請でも稼ぐ力でも、同社の取り組みが有意義なものであると見受けられます。

感染症の世界的流行など有事の混乱期においては、不正や不適切な取り組みを無理押ししてでも売上を高めることは避け、「SDGs × 感染症対策 × 働き方改革 × DX推進 = ニューノーマル」として、継続して健全な企業経営を進めることがより重要です。

そのような点で、一時的な売上の減少は大きな問題ではなく、同社およびグループ各社でESGの観点からも重要な取り組みを継続的に積み重ね、効果的に効率化し、生産性向上や部門間連携などで有事を乗り切る取り組みが重要です。

DX推進による効率的で生産性ある在宅勤務での出社率の低減や、グローバルな高度人材の育成・採用などをはじめ、育児支援制度の利用増加や労働安全の優良賞の受賞や、社内インターンシップ制度などによる部署間での相互理解や効率化・生産性向上への取り組みの促進などは、社会的にも高い評価に値します。

外国人の登用のみならず、管理職・役職者に占める女性の登用割合も上昇傾向であり、障がい者雇用の増加・ノーマライゼーションの取り組み強化など、難局を乗り切る上でも、ダイバーシティ&インクルージョン推進が同社の無形の戦略的資産として、健全な持続的な発展の礎となり得るものと推察されます。

さらなる取り組みへの期待

同社がより良い発展とさらなる社会貢献に向けて、これまでの良き取り組みを継続強化しつつ、有事下における稼ぐ力の強化および積極的なDX推進に関しては、サプライチェーン全体でのスマート・コントラクト化などが、環境負荷低減・コスト削減・生産性向上などの観点からも期待されます。

また、e文書法や電帳法改正などを勘案し、法令上問題がなくとも前例踏襲に陥りがちな、法務・経理部門も含めた各部門で、DX推進での低コスト・高効率・環境負荷低減となり得る取り組み強化が、グループ全体での稼ぐ力の強化やレジリエンス向上としても期待されます。

第三者意見を受けて

不二サッシ株式会社　執行役員　総合企画部長　**町田 仁**

不二サッシグループのCSR報告書2021の発行にあたり、本年も戸村様より貴重なご意見をいただき、厚く御礼申し上げます。

SDGs・ESGへの取り組み姿勢やコロナ禍における経営様式、DX推進の取り組み等についてご評価いただき心強く思います。一方で、ご指摘いただいた稼ぐ力やレジリエンスの向上につながる各部門でのDX推進のさらなる強化については、真摯に検討し取り組みを進めてまいります。

不二サッシグループは今後も企業価値を高め、サステナブルな社会の実現へ貢献するため、現在策定を進めている次期中期経営計画においてはより明確なビジョンのもと、一層の努力を重ねてまいります。

https://www.fujisash.co.jp/

不二サッシ株式会社

本　　社　〒 212-0058
神奈川県川崎市幸区鹿島田 1丁目 1番 2号 新川崎三井ビルディング
TEL 044-520-0034

東 京 本 部　〒 141-0031
東京都品川区西五反田 4丁目 32番 1号
TEL 03-6867-0770

内容に関するお問い合わせ先

総合企画部　TEL：03-6867-0777　E-mail：customer@fujisash.net

UD FONT by MORISAWA

見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。